

高校生 ICT Conference 2016

高校生 ICT Conference 2016

「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】

～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」

開催報告書

主催

安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁

目 次

1. 高校生 ICT Conference 2016 開催概要	1
2. 高校生 ICT Conference 2016 in 札幌 開催概要	5
3. 高校生 ICT Conference 2016 in 帯広 開催概要	13
4. 高校生 ICT Conference 2016 in 宮城 開催概要	20
5. 高校生 ICT Conference 2016 in 石川 開催概要	24
6. 高校生 ICT Conference 2016 in 長野 開催概要	28
7. 高校生 ICT Conference 2016 in 新潟 開催概要	35
8. 高校生 ICT Conference 2016 in 東京 開催概要	41
9. 高校生 ICT Conference 2016 in 神奈川 開催概要	45
10. 高校生 ICT Conference 2016 in 静岡 開催概要	51
11. 高校生 ICT Conference 2016 in 大阪 開催概要	55
12. 高校生 ICT Conference 2016 in 奈良 開催概要	60
13. 高校生 ICT Conference 2016 in 高知 開催概要	64
14. 高校生 ICT Conference 2016 in 福岡 開催概要	67
15. 高校生 ICT Conference 2016 in 大分 開催概要	71
16. 高校生 ICT Conference 2016 サミット 開催概要	76
17. 高校生 ICT Conference 2016 最終報告会	81
18. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応	100

1. 高校生 ICT Conference 2016 開催概要

名 称：	高校生 ICT Conference 2016 テーマ：「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】 ～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」
主催：	<ul style="list-style-type: none"> ● 安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 ● 長野県教育委員会（長野のみ） ● 福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会（福岡のみ） ● 大分県（大分のみ） ● 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所（大分のみ） ● 特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム（神奈川のみ） ● 仙台城南高等学校（宮城のみ）
共催：	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁、 十勝毎日新聞社（帯広のみ）、みやぎの ICT 教育研究専門部会（宮城のみ）、新潟県サイバー脅威対策協議会（新潟のみ）、いしかわ青少年安心ネット環境推進連絡会（石川のみ）、学校法人中村学園専門学校静岡電子情報カレッジ（静岡のみ）、帝塚山大学（奈良のみ）、大分県教育委員会、大分県高等学校PTA連合会（大分のみ）
後援：	一般社団法人全国高等学校PTA連合会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所、全国高等学校情報教育研究会、北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校PTA連合会、北海道私立中学高等学校協会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城県高等学校PTA連合会、新潟県教育委員会、新潟県高等学校長協会、新潟県高等学校PTA連合会、石川県、石川県教育委員会、石川県高等学校長協会、石川県高等学校PTA連合会、北陸携帯電話販売店協会、静岡県、静岡県教育委員会、静岡県公立高等学校 PTA 連合会、東京都教育委員会、東京都高等学校情報教育研究会、神奈川県教育委員会、大阪府高等学校情報教育研究会、奈良県、奈良県情報教育研究会、奈良県教育委員会、青少年を有害環境から守る奈良コンソーシアム、高知県教育委員会、高知新聞、福岡県公立高等学校長協会、福岡県私学協会、福岡県公立高等学校PTA連合会、せんだんの会
協賛：	グーグル株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社ラック、グリーン株式会社、LINE株式会社、エースチャイルド株式会社、株式会社メディア開発綜研、Twitter Japan株式会社、一般社団法人情報教育研究所
協力： (順不同)	アルプスシステムインテグレーション株式会社、株式会社内田洋行、株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、特定非営利活動法人浜松子どもとメディアリテラシー研究所、NPO法人e-Lunch、株式会社朝日出版社、ストップイットジャパン株式会社、河合塾

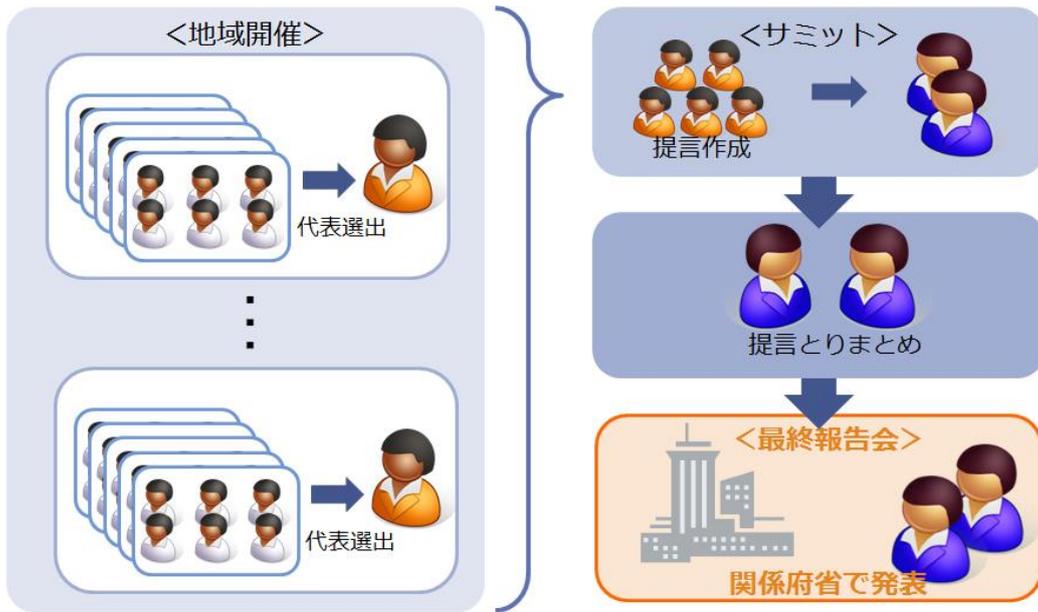
開催目的：	<p>高校生 ICT Conferenceは、2011年度に「ICTプロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012年度は、東京開催を加え計17校79人の高校生が参加し、2013年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて5拠点にて開催し、計51校267人の高校生が参加しました。2014度も同5拠点にて開催し、計44校221人の高校生が参加しました。</p> <p>2015年度は、石川、長野、神奈川、福岡を加えた9拠点にて開催し、計78校310人の高校生が参加しました。2016年度は、より全国的な規模での展開に向けて、新たに北海道帯広、仙台、静岡、新潟、高知を加えた14拠点にて開催し、計107校476人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生ICT Conferenceの開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>※平成21年4月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成23年度の小学校を皮切りに、平成24年は中学校、平成25年度は高等学校で全面実施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しいICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全にICTを利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】 ※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地	募集参加生徒 30名

募集人員等：	募集見学者各回 30名（各開催地により変動あり）
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference2016 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会代表・消費者団体訴訟室長） 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） 小城 英子（聖心女子大学） 齋藤長行（青山学院大学 株式会社 KDDI 総合研究所） 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】</p> <p>安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目14番6号 斎藤ビル2階 TEL：03-3562-8850 FAX：03-3562-1180</p>

<高校生 ICT Conference 2016 地域開催>

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜しました。

	地域	開催日時	会場
地域開催	北海道（札幌）	2016年10月16日（日）11:00-17:00	札幌ユビキタス協創広場 U-cala
	北海道（帯広）	2016年10月15日（土）11:00-17:00	とちちプラザ
	宮城	2016年8月22日（月）10:00-17:00	東北工業大学 一番町ロビー
	石川	2016年9月19日（月）10:00-17:00	石川県女性センター
	長野	2016年10月1日（土）10:00-17:00	安曇野市明科公民館
	新潟	2016年8月20日（土）10:00-17:00	ガレソンホール
	東京	2016年9月4日（日）10:30-17:00	東京ユビキタス協創広場 CANVAS
	神奈川	2016年9月11日（日）10:00-17:00	岩崎学園
	静岡	2016年9月25日（日）10:00-17:00	静岡電子情報カレッジ
	大阪	2016年8月28日（日）10:00-17:00	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
	奈良	2016年10月2日（日）10:00-17:00	帝塚山大学 東生駒キャンパス
	高知	2016年8月23日（火）9:30-16:30	ちより街テラス
	福岡	2016年8月18日（木）12:30-17:00	アクロス福岡
大分	2016年10月2日（日）10:00-16:00	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ	
東京サミット	2016年11月3日（木）13:00-17:00	東京ユビキタス協創広場 CANVAS	
最終報告会	2016年12月14日（水）	関係府省庁	



2. 高校生 ICT Conference 2016 in 札幌 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など70名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>主旨説明 羽衣学園高校 米田 謙三 先生 高校生 ICT Conference の意義や目的とあわせて、本日の流れを紹介しました。また、11月3日(木)の東京サミットに送り出す代表校選出の方法についても紹介しました。</p> <p>開会の挨拶 北海道総合通信局情報通信部長 野尻 英行 様 小学生から高校生までスマートフォンの利用が拡大、それに伴い、コミュニティサイトを起因とする事件で、青少年が被害者となる場合が増加しているお話をいただきました。あわせて、総務省の青少年情報リテラシー向上の取り組みを紹介いただきました。</p> <p>第一部 事業者講演 高校生がつなぐ ネット社会の安全安心 エースチャイルド株式会社 代表取締役CEO 西谷 雅史 様 青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律において、青少年のインターネット利用の状況把握、フィルタリングソフトの利用等について保護者や事業者の責任についてお話をいただきました。 また、千葉県柏市教育委員会が非行の抑止を目的に行っている「いじめ監視アプリフリー」を使った実証実験についての説明をいただきました。 是非、高校生が中心となって、ネット社会の安全安心を考えて欲しいと提言をいただきました。</p> <p>「たくさん意見の出る「予防」 あまり意見の出ない「対策」 デジタルアーツ株式会社経営企画部チーフエバンジェリスト 工藤 陽介 様 フィルタリングやネットの危険を学ぶアプリ等の製作とともに、ネットのトラブルから青少年を守る啓発活動等への関わりについてお話をいただきました。 また、今回のテーマについて議論するにあたり、イメージがわくように、動画投稿サイトやワンクリック詐欺の事例の説明をいただき、「予防」を考える時には、自分たちのアイデアを加えて独自性のあるものに、「対策」を考える時は、個々人の経験値は違っていても、自分のトラブル経験を赤裸々に語って欲しいこと、全力で議論に取り組むといいアイデアが出てくることについて助言いただきました。</p> <p>参加校 グループ分け、自己紹介 参加学校ごとに簡単な自己紹介を行いました。</p>
----	---

その後、7つにグループ分かれ、自己紹介を行い、少し緊張感も和らぎました。

第二部：グループ熟議「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」

グループに分かれ全国消費生活相談員協会北海道支部、(一社) LOCAL、北海道情報大学や事業者の方等がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。高校生たちは、自分の身の回りにあるネットトラブルについて事例をあげて、付箋紙に考えていることを提示するなどして、活発に意見を出し合いました。詐欺と個人情報に絞ったグループ、ネットいじめや出会い系サイトでのトラブルなど、それぞれのグループでテーマを決めて、自分の実体験などをもとに問題点を提示し分析を行っていました。そこから、今回のテーマに基づいて【予防】と【対策】を考え、「高校生だから言える提言」をキーワードに、整理分類して、最後に、グループごとにパソコンを使ってプレゼンテーションソフトでまとめました。各グループのプレゼンもグループ全員で役割を決める方法や、メインプレゼンターを中心に行い他のメンバーがサポートをするなど様々でした。

第三部：グループ発表

・グループ発表（各グループ5分程度）

各グループ5分程度で発表を行いました。

各グループは、模造紙のまとめとプレゼンテーションソフトを上手に活用しながら堂々と発表していました。

その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日の東京サミットに行く代表校を選ぶ投票を行いました。

その結果、北海道札幌東豊高等学校が代表校に選ばれました。

(グループ発表概要)

第1班 テーマ「ネットトラブル 詐欺と個人情報」

身近にあるネット上の詐欺と個人情報の問題について話し合いました。

ワンクリック詐欺、LINE詐欺、身代金詐欺について

・【対策】としては、ブラウザが一番の対策と考えて、最終的には大人や消費生活センター、警察に相談など、一人で考え込まない、抱え込まないことが大切で、被害にあった時、落ち着いて被害状況を把握して対策していくのが一番であると考えました。

・【予防】としては、バナー広告を非表示にするアプリや機能を利用することや信頼できるサイトを見つけて利用することがあげられた。

個人情報として、SNSでの写真投稿による個人情報の流出、大手企業からの個人情報の流出を例示。

・【対策】としては、周りの友人や大人に相談するのが良いと考え、早期発見したらすぐに消すことが良いという意見が出た。

・【予防】としては、SNSに場所を特定されるような写真を投稿しないこと、事前に

講習に参加してトラブルに関わらないように知識を得ること。Twitter とかにある鍵をかける「非公開設定」をするのが重要だと考えました。

第2班 テーマ「ネットでのトラブル」

自分たちの周りで起きたトラブルのなかでもネット関係の対人関係のトラブル、LINE の既読・未読無視、グループ内でのいじめ、なりすまし、また、Twitter における不適切な投稿（写真・動画・犯罪行為）、位置情報による場所の特定について考えました。

- ・【予防策】としては、クラスの LINE に担任の先生を入れる。自分が投稿する前に内容を考える。全世界の人が見ていることを自覚する。複数のアカウントを作成する。自己中心的に考えず、相手への思いやりの考えを持つなどの意見がでました。
- ・いざ、トラブルが発生した場合の【対策】については、そもそも、簡単な気持ちで投稿しないこと。親子でセミナーに参加して知識を得る。トラブルになったら冷静になり相手と直接話し合うことや謝ることが必要。信頼できる人（親・先生）に相談する。創造的な意見として高校生目線でアプリをつくるなどの意見も出されました。

第3班 テーマ 「3つのトラブルの対処法」

ワンクリック詐欺、写真によるプライバシー流失、既読スルーから始まるネットいじめについて考えました。

ワンクリック詐欺について。

- ・【予防】としては、学校で偽ワンクリック URL が載ったメールを一斉送信して、対応を検証する、「インターネット避難訓練」のようなものを行う。また、有料の広告ブロックアプリにより広告を制限する。
- ・【対策】としては、電源を切る。ブラウザバックする。国民生活センターなどに相談することを考えた。

写真によるプライバシー流失について

- ・【予防】としては、個人情報の写る場所にモザイクをかけたり、スタンプなどを付けたりする。顔認証で顔にスタンプをつける。講習で教えること。
- ・【対策】としては、友達に消してもらおうようにすること、それでもだめな場合は、少数でも投稿を消せるようにする。ネット監視&パトロール、現実での注意をする。

既読スルーから始まるネットいじめについて

- ・【予防】については、厚い信頼関係を築くこと（信頼関係がない人とは深い話はしない）、今寝ているか起きているか（今何をしているのか）マークを義務づけた方がいいと考えました。
 - ・【対策】としては、何故返信できなかったのか経緯をしっかりと説明とすること、スクショなどで証拠写真を撮ることがいいと思う。他にも意地を張らずにきちんと謝ることが大切と考えた。
- 人と人の通信の間に AI を介することによって、人が言った悪口を柔らかくしっか

りとした言葉にするシステムを採用してくれないかなと考えました。
インターネット上には様々なトラブルがあります。そのトラブルひとつひとつに予防と対策があります。それを一人一人が意識して、たまには大人に相談して解決していくのが大事だと思います。

第4班 テーマ「どうする？SNS」～大人の知らない真実～

自分たちの班で一番利用が多かった LINE のなかで、LINE のグループでの発言を全員が無視する。LINE で会話を終わらせるタイミングがわからない。SNS で不適切な写真をアップすることなど、身近にあるネットの問題を話し合った。

・既読無視トラブルの原因を、誰かが答えてくれるだろうと人任せにすることと考え【予防】を人任せにしないこととした。

・会話を終わらせるタイミングについては、返信しにくい文章を送ってくることを原因と考えて、【予防】をスタンプやあいさつで会話を終わらせる。「返さなくていいよ」などと送り会話を終わらせる。事前に頻繁に LINE を見ないことについて相手に伝えておくことがあげられた。

・SNS で不適切な写真をアップすることの原因を不適切な写真をアップすれば人気者になれるという間違った理解があると考え、【予防】として、教育をしっかりとしておくこと。常に誰かに見られているということを意識することがあげられた。

・【対策】実際にトラブルに巻き込まれた場合、全てに共通する対策として「大人に相談したい」のだけでも、実際、大人は高校生の状況やネットに関する何を何も知らない。大人は頼りにならないと思っている。大人は SNS などに偏見を持っているなど相談しづらい現状を述べ、「大人も SNS を実際に使い体験して知識を深めて欲しい。」「よく知りもせず無理に解決させないでほしい。」「偏見を持たず時代に合った考え方をしてほしい」など、自分たちの思いを語り、大人と信頼関係を築きたいことについて発表しました。

第5班 テーマ「関係ないは通じない！」～今から話そうネットについて～

ネットいじめと出会い系サイトでのトラブルについて考えました。

ネットいじめの原因を「匿名で利用できる」、「相手の顔が見えない」とした。

・【予防】としては、SNS だけでなく、「実際に会ったり話したりして、現実でのコミュニケーションを深める」こととした。

・【対策】「自分と相手の意見を認める」、「周りの人に相談したり、相談サイトを見る」などの意見がだされた。

出会い系でトラブルになる原因を新しい出会いを求めるにあたり、いちばん手軽に使えるのが出会い系で、知識不足があつて、まったく安全だと思い込んでいることで危険な部分を知らないから使ってしまうと考えた。

・トラブルに巻き込まれないための【予防】としては、「直接会いに行かない」、「周りの人に話す」、「そもそも使わない」があげられました。

・【対策】としては、「相手よりも遅く待ち合わせ場所に行く」、「通報する」の意見

が発表された。

・全体としてのまとめでは、本当に投稿していいのか、自分がやられたらどうか考えた上で判断する。自分に関係ないではなく、この会の様に家族や友達と話し合ってみることが必要とまとめました。

第6班 テーマ「りおなさんの炎上物語」

私たちは身近にありそうで、誰にでも起こりうる話題という理由から「炎上」について取り上げてみました。炎上の原因として、アイドルへの投稿を例にあげ、「過剰なその人への想い」、「投稿者への偏見、侮蔑など」、「投稿者が周りを考えていなかった」、「感情的になりすぎた」をあげた。

・【予防・対策】としては、「誰に、なぜ、どのように伝えたいか」を考えて投稿することが大事と考えた。また、相手の気持ちや、どう受け取られるかについて考えながら発信していく必要があると考えました。

第7班 テーマ「伝書鳩とインターネット」～過去を知り未来を語る～

スマホを忘れて駅にずっと取り残された実体験から、スマホに依存していることの重大性を知って、伝書鳩のような古い考え方も必要と考えた。

ネットの現実にあることや問題点、SNS とプライバシーについて考えました。

まず、ネット機能には、既読機能があることからいつまでも返信に縛られる。いつまで待っても返信がない。最後の笑で感情がわからない。「別にいいよ」が肯定可否かわからない等の問題点をあげた。

・【予防】として「否定より先に肯定を!」、「他の選択肢を考える。(スマホがなければ伝書鳩という考え方。）」、「Yes か No しか言わない」、「2択で聞く」、「あまり気にしないこと(メンタル)」をあげた。

・【対策】としては、問題が起きたら「すなおに謝ること」、「反発しないことと素直に聞き入れること」、わからないときは、「本人に直接聞くこと」が必要。

SNS とプライバシーの問題点として、「パスワードが同じで1つばれると全部ばれること」、「SNS 上に自分の個人情報を載せること」、「他人に個人情報を流出させられること」をあげた。

・【予防】としては、「自己管理をしっかりする」、「講習をまじめに受ける」、「少人数で話し合い発表する。」等について、まじめに取り組んでいく必要がある。

・【対策】としては、「相談する」、「友達同士で教え合う」など、自分のことだけでなく相手のことについてちゃんと考えられる思考が必要と考える。

・最後に「企業へのお願い」として、「2段階認証の活発化」、「同じパスワードを使えない機能をつける」、「個人情報を必要としないものには、規制をつける」、「個人情報になり得ることを投稿できないようにする」などの提案がありました。

全体講評：北海道大学 重田 勝介 様

はじめに、「全体的に議論も熱心で、プレゼンもしっかりしていてとても良かった

	<p>と」お話がありました。</p> <p>本日は、各グループで、テーマについて【予防】と【対策】について話し合ってもらうことによって、「皆さんのお互いの経験を共有化できたこと」、「環境の違う仲間たちが自由に話すことができたこと」、「この場の議論を共有して意見を出し合えたこと」は、素晴らしいことだと述べました。</p> <p>また、自動車の発展過程を例に、新しい技術が発展する課程で色々な対策を考えなければならないことが現実で、そういった流れが非常に早いのがインターネットの世界なのだというお話をいただきました。</p> <p>そして、そのような世界では、誰も正しい答えを知らないし、その場、その場で大人と子供が話し合っていくことが大切で、私たちがこれからインターネットを自由に使っていく上でも大事なことだとお話がありました。</p> <p>今後もこのような機会をつくっていただいて、皆さんの中で議論することを続けてもらいたいと結びました。</p> <p>最後に、米田先生から「今日で終わりではなくて、学校に戻ってぜひこの取組を広げてもらいたい。」と話がありました。</p>
参加校：	北海道札幌東豊高等学校、北海道石狩南高等学校、北海道旭川工業高校、北海道岩見沢農業高等学校、北海道札幌旭丘高等学校、北海道大麻高等学校
日時：	2016年10月16日（日）11:00-17:00
場所：	内田洋行・札幌ユビキタス協創広場 U-cala 北海道札幌市中央区北1条東4丁目1-1 サッポロファクトリー1条館1階
参加人数：	<p>熟議参加生徒 40人</p> <p>見学者 30人（教員・教育関係者・その他）</p> <p>合計：70人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【第1班】6人</p> <p>北海道石狩南高等学校 2年 男子</p> <p>北海道旭川工業高等学校 2年 男子</p> <p>北海道札幌旭丘高等学校 1年 男子</p> <p>北海道札幌東豊高等学校 3年 男子</p> <p>北海道札幌東豊高等学校 1年 女子</p> <p>北海道大麻高等学校 1年 女子</p> <p>〔ファシリテーター〕</p> <p>公益社団法人 全国消費生活相談員協会 山口 博美</p> <p>【第2班】6人</p> <p>北海道札幌旭丘高等学校 1年 男子</p> <p>北海道大麻高等学校 1年 女子</p> <p>北海道旭川工業高等学校 2年 女子</p> <p>北海道石狩南高等学校 3年 男子</p> <p>北海道札幌東豊高等学校 1年 男子</p>

北海道札幌東豊高等学校 3年 男子
〔ファシリテーター〕
公益社団法人 全国消費生活相談員協会 伊藤 香

【第3班】6人

北海道札幌旭丘高等学校 2年 女子
北海道旭川工業高等学校 2年 男子
北海道大麻高等学校 1年 女子
北海道札幌東豊高等学校 1年 男子
北海道札幌東豊高等学校 2年 女子
北海道石狩南高等学校 2年 男子
〔ファシリテーター〕
一般社団法人 LOCAL 蒲田 拓也

【第4班】7人

北海道札幌旭丘高等学校 1年 男子
北海道大麻高等学校 1年 女子
北海道大麻高等学校 1年 女子
北海道札幌東豊高等学校 2年 女子
北海道札幌東豊高等学校 2年 女子
北海道石狩南高等学校 1年 男子
北海道岩見沢農業高等学校 2年 女子
〔ファシリテーター〕
一般社団法人 LOCAL 八巻 正行

【第5班】5人

北海道札幌旭丘高等学校 2年 男子
北海道大麻高等学校 1年 男子
北海道大麻高等学校 1年 女子
北海道札幌東豊高等学校 3年 男子
北海道札幌東豊高等学校 2年 女子
〔ファシリテーター〕
北海道情報大学 高井 那美

【第6班】5人

北海道札幌旭丘高等学校 2年 男子
北海道石狩南高等学校 2年 女子
北海道大麻高等学校 1年 男子
北海道大麻高等学校 1年 女子
北海道札幌東豊高等学校 1年 男子
〔ファシリテーター〕

	株式会社オキット 當山 達也 〔ファシリテーター補助〕 J K K 永坂 武城 【第7班】5人 北海道石狩南高等学校 2年 女子 北海道岩見沢農業高等学校 2年 男子 北海道大麻高等学校 1年 男子 北海道大麻高等学校 1年 女子 北海道札幌東豊高等学校 3年 女子 〔ファシリテーター〕 エースチャイルド株式会社 西谷 雅史
--	---

主担当

大阪私学情報教育化研究会	米田	司会進行
安心ネットづくり促進協議会	白戸 他	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動 全国連絡会	工藤	庶務
総務省 北海道総合通信局		現地調整、記録
全国消費生活相談員協会北海道支部	山口、伊藤	ファシリテーター
一般社団法人 LOCAL	八巻、三谷 他	ファシリテーター、庶務
株式会社オキット	當山	ファシリテーター
エースチャイルド株式会社	西谷	講演、ファシリテーター
NPO 法人 NEXTDAY		機材準備等
各地協力団体、事業者、大学等		講演、現地調整、ファシリテーター、他
内田洋行	齋藤、舟根	会場設営、機材準備等

(敬称略)

3. 高校生 ICT Conference 2016 in 帯広 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など53名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする?【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>主旨説明 草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 吉岡 良平 様</p> <p>高校生 ICT Conference の意義や目的とあわせて、本日の流れを紹介しました。また、11月の東京サミットに送り出す代表校選出の方法についても紹介しました。</p> <p>開会の挨拶</p> <p>北海道総合通信局情報通信部電気通信事業課長 宮腰 宗一 様</p> <p>フィルタリングに関する法律、青少年のスマホ利用と被害の拡大についてお話しいただきました。あわせて、総務省の情報モラル・リテラシー向上の取組を紹介いただきました。</p> <p>第一部 事業者講演</p> <p>「たくさん意見の出る「予防」あまり意見の出ない「対策」」</p> <p>デジタルアーツ株式会社 経営企画部 チーフエバンジェリスト 工藤 陽介 様</p> <p>フィルタリングやネットの危険を学ぶアプリ等の製作とともに、ネットのトラブルから青少年を守る啓発活動等への関わりについてお話しをいただきました。</p> <p>また、今回のテーマについて議論するにあたり、イメージがわくように、動画投稿サイトやワンクリック詐欺の事例の説明をいただき、「予防」を考える時には、自分たちのアイデアを加えて独自性のあるものに、「対策」を考える時は、個々人の経験値は違っていても、自分のトラブル経験を赤裸々に語って欲しいこと、全力で議論に取り組むといいアイデアが出てくることについて助言いただきました。</p> <p>参加校 学校紹介 及び グループ分け</p> <p>参加学校ごとに簡単な自己紹介を行いました。また、ファシリテーターの方々も自己紹介を行いました。自己紹介で少し緊張感も和らぎました。その後、5つにグループ分けしました。</p> <p>第二部：熟議</p> <p>グループに分かれ、十勝毎日新聞社、ワンエックス、全国消費生活相談員協会、帯広コア専門学校の方々もファシリテーターとなり、熟議を開始しました。</p> <p>高校生たちはネットトラブルについて、自分たちが考えていることをそれぞれ発表し、活発に意見を出し合いました。トラブル事例、予防、対策を付箋紙に記載していき、分類分けしながら付箋紙を模造紙に貼り付けていく中で、さらに意見を出し合いながら各グループでまとめて行きました。</p> <p>また、参加している企業の方々からも的確な助言をいただきました。</p> <p>第三部：グループ発表 (各グループ 3分程度)</p>
----	---

各グループでは、スクリーンに映したプレゼンテーション資料と模造紙を活用しながら発表を行いました。

その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日の東京サミットに行く代表校を選ぶ投票を行いました。その結果、北海道釧路明輝高等学校が代表校に選ばれました。

(グループ発表概要)

第1班 テーマ 「～相手のことを考えて行動する意識をもとう～俺たちのSNSは腐っちゃいないZE!」

・SNS、LINE、twitterなどのトラブルが最近多くなっている。トラブル内容としては、友達同士の喧嘩や個人情報の流出など。

(LINEトラブル予防編)

- ・送る前に誤解を招くような文じゃないか自分で一回読んで確認しよう!
- ・文字だと伝わらないと思った場合は、通話などの機能を利用して直接話そう!
- ・本人に誤解を招かないように絵文字などをつけたりして文章を柔らかくしよう!
- ・誰もが一度は経験していると思う。誤解を招かないようにするということは相手を思いやる気持ちと一緒なので、結構大事だと思う。

(もしもトラブルになってしまったら・対策編)

- ・会って直接謝ったり、誤解を解きましょう!
- ・何が悪かったのか自分なりに考えて次に生かそう!
- ・大人やSNSトラブルに詳しい人に相談しよう!

(写真・動画編)

- ・自分の顔写真等をネット上にむやみに流出させない。
- ・位置情報をOFFにして使用する。
- ・友達の写真をUPする際には本人に許可を取る。勝手にUPすると不快に思う人もいるので気を付けましょう。

(流出した際のトラブル対策編)

- ・写真をすぐに消してもらおう。
- ・画像を持っている友達に消してもらおうように呼び掛ける。
- ・自分で対処できない場合は運営に削除依頼をしよう!

(まとめ)

- ・できるなら身近なことで皆で話すなど見たり聞いたりする。
- ・全体として一人ひとりが知識を持つ。
- ・自分の発言に責任を持つ。
- ・実際の社会とネットの社会はつながっているという意識を持つ。

(提案)

- ・授業でトラブルの疑似体験を取り入れる。
- ・SNSを始めるときにトラブル対策のチュートリアルを入れる。
- ・いずれも楽しく学べるような内容にして興味・関心を持ってもらえるような内容にする。

第2班 テーマ 「ネットの危険性」

(身近なネットトラブル)

・ニュアンスが違って受け取り方も違くなる。例えば LINE で「いいよ」と打つとき、「OK」の意味で使う場面や「いない」の意味で使う場面があるため、トラブルが起こる。

・サイト広告をクリックし、不正なサイトに繋がりネットトラブルにつながる。
・LINE などの会話で語句に違和感を感じてトラブルにつながる。「わたしは」「わたしわ」、「まじで」「まちで」。

・アップした動画や写真から場所が特定される。

・そのグループに入っていないだけで話に入れない。

(トラブルを起こさない巻き込まれないための予防法)

・送る文章の内容が相手にとって不快な気持ちにならないか確認する。

・広告を消すアプリで広告を消す。

・場所などが特定されるような動画や写真はアップしない。

(トラブルが発生した際の対策法)

・LINE などのやり取りで相手と自分のとらえ方が違ってトラブルになった場合、しっかりと誤解を解いた上で謝罪する。

・自分ひとりでどうにもできないと思ったら消費生活センター等に問い合わせる。

(まとめ)

・自分の行動を冷静に考え、意識することや危険が潜んでいることをちゃんと理解することができた。専門機関に相談する方法も知ることができたので、良い機会だった。

第3班 テーマ 「ネットトラブルの予防と対策」

(身の回りにあるネットトラブルの予防)

・OS を最新の状態に更新して、不正アクセスを防ぐ。フィルタリング。SNS などをもともと使用しない。個人情報流出の恐れがある写真は投稿しない。

(トラブルの具体例 自分が起こしてしまう例)

・親が知らない間に子供がクレジットカードでゲーム内課金する。対策としては、クレジットカードを使わないように制限をかけたり、グーグルプレイカード、アイチューンズカードなどのプリペイドカードを使って課金する。

・違法ダウンロードした場合、アプリ、ソフトを削除し、レビューなどに投稿して被害を減らしていく。

・個人情報流出。LINE であれば ID やパスワードをこまめに変更したり、QR コードが流出した場合は、QR コードの更新を行うことで被害を減らすことができる。

・炎上した場合、削除や反抗をせずに反省する。

・誹謗中傷については、本人同士での解決は難しいので、第三者や大人に相談する。

(自分が被害にあう例)

- ・コンピュータウイルス。ネット閲覧だけでも感染する。対策としてウイルス駆除ソフトを使用する。
 - ・ネットショッピングでお金を支払ったのに商品が届かない。レビューや他の人の意見を聞いて参考にする。
 - ・出会い系サイトで会おうという人は無視をする。会う場合は保護者同伴など第三者に見張ってもらう。
 - ・アカウント乗っ取りでは、アカウント削除やパスワード変更をする。
 - ・ワンクリック詐欺は無視したり、取引内容をスクリーンショットで保存する。
 - ・誹謗中傷については、本人同士での解決は難しいので、第三者や大人に相談する。
- (まとめ)
- ・ネットに関する知識を深める。具体例や対策法を知っていれば被害を受けた際にも対応できる。
 - ・自分が使用している端末について知識を深める。使用する端末の知識が無いと迷惑メールやアプリが消えるなど知らないうちに被害に遭う。
 - ・最終的に、メールも大量に来るし個人情報もヤバイとなったら警察、消費生活センターに連絡する。

第4班 テーマ 「SNS から発生するトラブル 被害にあった場合の予防と対策」

- ・自分たちの身の回りにある SNS トラブルの具体例として、詐欺、個人情報の流出、課金、LINE、twitter、出会い系などのトラブルが多い。
- ・個人情報の流出は、住所の特定、画像からの位置情報の特定などの被害が多い。
- ・予防と対策については、電話番号やメールアドレスの変更、むやみに自分の情報を書かない、画像の位置情報を設定しない、などが挙げられる。
- ・詐欺被害については、ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺、通信販売などがある。
- ・ワンクリック詐欺では、アダルトサイトをクリックしただけで入会完了となる、フィッシング詐欺では、金融会社を装って詐欺メールが届く、通信販売では、注文商品が届かない、などの被害がある。
- ・予防と対策については、警察や弁護士など大人に相談することや購入前に公式サイトか確認することが重要。
- ・LINE ではグループ外し、twitter では乗っ取りやなりすまし、誤情報の拡散、ストーカー被害などが挙げられる。
- ・twitter などの乗っ取り対策としては、パスワードを長く複雑にする、適度にログアウトする、鍵をかけるなど。Twitter、フェイスブック、インスタグラムでも同様。アカウント変更や情報の削除、アカウント削除も重要。
- ・ストーカー被害ではブロックをする。
- ・LINE グループのいじめについては、いじめられている人に個別に LINE で励ましたり、自分たちがいじめを受けている人に気づいてあげるということが重要。
- ・出会い系被害では、小中高生の売春や援助交際などが挙げられる。何故、出会い系に入るかというと、いじめで自分の居場所がなくなり、出会い系に手を染めてし

まうなどの意見があった。

・出会い系被害を受けてしまった場合は、自ら被害者として呼びかけをする、もし心身に大きな傷を負ってしまった場合は、カウンセラーに相談するなどの意見があった。

・まとめとして、第4班では経験者がいたこともあり SNS 被害についてまとめていきました。個人情報流出や LINE 被害など、思いつく限りしかまとめられませんでした。それでも被害が多いことが分かりました。最終的な対策としては、警察や消費生活センターに相談することが一番多く上がりました。

第5班 テーマ 「ネットトラブルのバイブル」

・過誤トラブル。間違った情報が流れてくる。予防としては、自分が正しいと思った情報を読み取り、ネット情報をうのみにしないこと。

・炎上トラブル。SNS、LINE、twitter の発言で炎上する。自分が巻き込まれるケースは、知らない人からの友達申請、SNS などでの暴言。予防としては、他人にも自信を持って見せられるものだけを載せる、軽い気持ちで悪口や暴言を言わないこと。対策としては、嘘をつかない、コメントに対して感謝し、削除しないなど。

・金銭トラブル。ネット通販で注文しても商品が届かない、自分が適切に包装せずに発送し壊れてしまい苦情が来る。架空請求、ワンクリック詐欺。予防として、売っている人の情報を知るなど信用できるサイトを使う、ネットで売買しない。対策として、消費生活センターや弁護士に相談。最終的には、通報します。

・個人情報流出。SNS などて本人の許可を受けずに写真などを掲載する。予防としては、個人情報を載せない、モザイクをかける、相手の許可を得てから載せる。対策としては、削除してほしいと伝える、アカウントを変える。

・SNS で本人ではない人がアカウントを偽り、個人情報を自己紹介に載せる。予防としては、限られた人にしか見られないようにする、自分が後で困る情報は出さない。対策としては、信頼できる人に相談する。最終的には、通報します。

・まとめとして、自分が安心して相談できる人を見つけておくこと。

講評：北海道帯広南商業高等学校 校長 我妻 公裕 様

「熟議に参加した高校生とファシリテーターに謝意。意見の中で耳が痛いことが2、3あった。何故皆さんの親世代が機械音痴なのか。インターネットの利用が広がったのは、Windows 95以降。学校で「情報」の科目が新設されてから17年しか経過していない。生まれながらにケータイやネットに接している皆さんと違い、親世代は無かった。今の大人は教えられないが、皆さんの子供は皆さんからスマホ・インターネットの使用を学ぶことになる。今回の成果を学校に持ち帰り、身近な人に伝え広めてほしい。」と話されました。

参加校	北海道帯広南商業高等学校、北海道帯広工業高等学校、北海道帯広農業高等学校、北海道釧路明輝高等学校、北海道帯広緑陽高等学校
日時	2016年10月15日（土）11:00-17:00
場所	とちちプラザ402

	北海道帯広市西4条南13丁目1
参加人数	熟議参加生徒 31 名 見学者 22 (教員、教育関係者、その他) 合計 53 名
熟議グループ	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【第1班】7名 北海道帯広農業高等学校 2年 男子 北海道帯広南商業高等学校 1年 女子 北海道帯広緑陽高等学校 2年 男子 北海道釧路明輝高等学校 1年 女子 北海道帯広工業高等学校 2年 女子 北海道帯広工業高等学校 2年 男子 北海道帯広南商業高等学校 2年 女子 [ファシリテーター] 十勝毎日新聞社 伊藤 肇 【第2班】6名 北海道釧路明輝高等学校 1年 男子 北海道帯広南商業高等学校 2年 女子 北海道帯広南商業高等学校 1年 女子 北海道帯広工業高等学校 2年 女子 北海道帯広工業高等学校 2年 男子 北海道釧路明輝高等学校 1年 女子 [ファシリテーター] ワンエックス 山本 国宏 【第3班】6名 北海道帯広工業高等学校 2年 男子 北海道帯広工業高等学校 1年 男子 北海道帯広工業高等学校 1年 女子 北海道帯広南商業高等学校 2年 女子 北海道帯広南商業高等学校 1年 女子 北海道帯広農業高等学校 2年 男子 [ファシリテーター] 全国消費生活相談員協会 大淵 泰子 【第4班】6名 北海道帯広南商業高等学校 2年 女子 北海道帯広南商業高等学校 1年 女子 北海道帯広工業高等学校 1年 男子 北海道帯広農業高等学校 2年 女子

北海道帯広農業高等学校 2年 男子 北海道帯広工業高等学校 2年 男子 [ファシリテーター] 帯広コア専門学校 小野 眞靖 【第5班】6名 北海道帯広南商業高等学校 2年 女子 北海道帯広農業高等学校 2年 男子 北海道帯広工業高等学校 1年 男子 北海道帯広工業高等学校 1年 男子 北海道釧路明輝高等学校 1年 女子 北海道帯広南商業高等学校 1年 女子 [ファシリテーター] ワンエックス 辻田 茂生
--

主担当

安心ネットづくり促進協議会	白戸	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡	司会
十勝毎日新聞社	伊東 他	庶務、ファシリテーター
有限会社ワン・エックス、帯広コア専門学校、 全国消費生活相談員協会北海道支部、 帯広市、十勝総合振興局 等		ファシリテーター、受付、庶務 他
総務省 北海道総合通信局		記録

(敬称略)

4. 高校生 ICT Conference 2016 in 宮城 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など40名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 大阪私学教育情報化研究会 副会長 米田 謙三 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを簡単に説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 文部科学省生涯学習政策局青少年教育課 青少年有害環境対策専門官 佐藤 貴 様 文部科学省と高校生 ICT Conference の関係や高校生への期待、大会後の取り組みなどについて、お話をいただきました。</p> <p>総務省東北総合通信局 情報通信部電気通信事業課 課長 齋藤 宏美 様 東北総合通信局の概要説明と高校生 ICT Conference の関係などについて、お話をいただきました。</p> <p>第一部：「事業者講演」 Twitter Japan 株式会社 公共政策マネージャー 竹岡 志歩 様 「Twitter をより楽しく、より安全に使うために」 Twitter の世界や日本での使われ方や、Twitter を使って実際に起こったトラブル事例をもとに、予防方法や対処方法について、生徒との対話を含めながら、お話をいただきました。</p> <p>一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構 理事 松原 卓 様 「インターネット・リテラシーの地域リーダーを目指そう！」 ネットトラブルの事例をもとに、対処方法をクイズ形式で説明して頂き、ネットトラブルに対する正解は無く、ネットのトラブルに対応するための考え方や行動するための能力を身に付けることが重要であることをお話し頂きました。</p> <p>参加校 学校紹介 および グループ分け 参加学校ごとに、簡単に学校紹介と自己紹介をしていただきました。(順不同) 仙台城南高等学校 宮城県古川工業高等学校 東北学院高等学校 石巻市立桜坂高等学校</p>
----	---

	<p>自己紹介の後、4つのグループに分かれ、各グループ内で自己紹介などを実施しました。</p> <p>第二部：熟議「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」</p> <p>グループに分かれ参加校の先生等がファシリテーター、書記となって、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。細かなテーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。</p> <p>また企業の方もサポーターとして入っていただきました。専門的な質問が出るとすばやく答えてくださいました。事前にフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。</p> <p>(詳細は別紙「熟議録」をご参照ください)</p> <p>第三部：グループ発表</p> <p>各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。</p> <p>(詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください)</p> <p>その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、東北学院高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>最後に、仙台南高校 校長 久力 誠 様より全体講評をいただきました。</p> <p>各グループの発表を振り返り、1つ1つポイント・キーワードをあげて丁寧にコメントをいただきました。</p>
参加校：	仙台南高等学校、宮城県古川工業高等学校 東北学院高等学校、石巻市立桜坂高等学校（順不同）
日 時：	2016年8月22日（月）10:00-15:00（台風のため時間短縮）
場 所：	東北工業大学 一番町ロビー
参加人数：	熟議参加生徒 16人 見学者 24人（教員・教育関係者・その他） 合計：40人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【第1班】4人 仙台南高等学校 3年 男子 古川工業高等学校 1年 女子 東北学院高等学校 1年 男子 仙台南高等学校 3年 男子

〔ファシリテーター〕

城南高等学校 千葉 俊哉

〔書記〕

城南高等学校 中里加奈子

【第2班】4人

古川工業高等学校 1年 男子

石巻市立桜坂高等学校 1年 女子

仙台城南高等学校 3年 男子

仙台城南高等学校 2年 男子

〔ファシリテーター〕

東北学院高等学校 名越 幸生

〔書記〕

城南高等学校 鈴木 聡

【第3班】4人

仙台城南高等学校 2年 女子

石巻市立桜坂高等学校 1年 女子

東北学院高等学校 2年 男子

古川工業高等学校 1年 男子

〔ファシリテーター〕

城南高等学校 樋代 直人

〔書記〕

城南高等学校 虎岩 容子

【第4班】4人

石巻市立桜坂高等学校 1年 女子

古川工業高等学校 2年 男子

東北学院高等学校 1年 男子

仙台城南高等学校 3年 男子

〔ファシリテーター〕

城南高等学校 鈴木 理恵

〔書記〕

城南高等学校 浦田 哲也

主担当

地域事務局	仙台城南高等学校	会場設営、受付、ファシリテーター、書記、庶務 他
大阪私学教育情報化研究会	米田	司会進行
安心ネットづくり促進協議会	高橋	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	工藤	受付、庶務
各地協力団体、事業者、		挨拶、講演、ファシリテーター、書記、庶務 他
東北工業大学		会場、機材提供

(敬称略)

5. 高校生 ICT Conference 2016 in 石川 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 55 名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 羽衣学園 米田 謙三 様</p> <p>高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを簡単に説明いただきました。</p> <p>開会の挨拶</p> <p>総務省 北陸総合通信局 情報通信部 電気通信事業課長 増田 和宏 様</p> <p>以下についてお話しいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none">・総務省が毎年実施している「青少年のインターネット・リテラシー指標等」調査結果について。・青少年のインターネット利用を巡るトラブルや被害等も、年々増加していて、深刻な社会問題となっていること。・インターネット上のトラブルや被害等は他人ごとでなく、使い方を誤ると自身が被害者にも加害者にもなりうることを知っておかなければならないこと。・インターネットを安全に利用するためには、大人だけではなく、高校生の皆さんも、インターネットの危険性に対する「気づき」、安全利用のために必要なマナー・姿勢・モラルを「学ぶ」こと、そして日常生活において「実践」することがとても重要であること。・本カンファレンスに期待する点について。 <p>文部科学省 生涯学習政策局青少年教育課 課長 土肥 克己 様</p> <p>以下についてお話しいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none">・文部科学省の役割と自分の仕事と責務について。・体験活動等を推進する際に、いつも問題となるスマホ・インターネット。青少年の貴重な時間が失われていることを深刻にとらえており、一定のルールの下で使われることが求められていること。・本日参加の皆さんの周りにも、スマホ・インターネットの使い方がよくない方がいると思うので、そういう人たちに本日まとめた結果を伝えてほしいこと。 <p>第一部 事業者による講演</p>
----	--

株式会社サイバーエージェント メディアサポート室 室長 中村 広毅 様

Ameba で実際に発生した事例をもとに、ネットトラブル発生の詳細、また Ameba での対処方法の説明。

特に不正アクセスの原因、対処方法については実際に Web を見ながら講演を行っていただきました。

KDDI 株式会社 北陸総支社管理部 細川 一人 様

「ケータイ・スマホはとても便利！でも使い方には注意！！」というテーマで講演していただき、以下のコメントをいただきました。

「インターネットに安易に画像などをアップロードすると加害者になり、刑事告発、損害賠償、就職できない事態になることがあることを高校生のみなさんに認識していただいたことと思います。また、ネット詐欺に遭わないために、個人情報の取り扱いには注意が必要なことも大事なことです、これを機会に理解を深めていただけたら幸いです。」

参加校 学校紹介 および グループ分け

参加学校ごとに、簡単に学校紹介と自己紹介をしていただきました。

自己紹介の後、5つのグループに分かれ、各グループ内で自己紹介などを実施しました。

第二部：熟議「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」

グループに分かれ、ファシリテーターは金沢大学の学生、事業者の方が担当し、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。

また企業の方もサポーターとして入っていただきました。専門的な質問が出ると

すばやく答えてくださいました。ファシリテーターは事前にフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）

その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、石川県金沢二水高校が代表校に選出され、発表されました。

全体講評 金沢大学 教授 浅野 秀重 様

以下コメントをいただきました。

	<p>『ネットトラブル』どうする？予防と対策』をテーマに、5つのグループに分かれ、それぞれのグループのファシリテーターの支援を受けながらのワークショップでは、様々な視点から率直かつ真摯に意見交換し、その成果を数枚のスライドに集約し、これを参加者の前で発表しました。若い世代の実体験や発想に基づく創意ある発表は新鮮かつ大胆さと繊細さを感じさせるもので、どの発表も参加者の共感を得るものでした。</p> <p>高校生がこのように一堂に会して意見交換し、その意見を調整し集団の力でまとめるという活動は、まさにアクティブ・ラーニングとしての貴重な「学びの機会」「成長の場」となりました。今後ともこうした機会を大人の側が提供する意義と必要性を感じています。</p>
参加校：	石川県立金沢北陵高等学校 石川県立工業高等学校 石川県立金沢二水高等学校 石川県立大聖寺高等学校 石川県立七尾高等学校 石川県立小松工業高等学校 石川県立小松商業高等学校（順不同）
日時：	2016年9月19日（月・祝） 10:00-17:00
場所：	石川県女性センター 大会議室 金沢市三社町1番44号。
参加人数：	熟議参加生徒 26人 見学者・関係者 29人（教員・教育関係者・その他） 合計：55人
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【グループ1】5名 金沢北陵高校3年男子、工業高校1年男子、七尾高校2年男子、金沢二水高校2年女子、大聖寺高校2年女子 [ファシリテーター] 金沢大学 浅野 嵩法</p> <p>【グループ2】5名 金沢北陵高校3年男子、工業高校1年男子、小松工業高校1年男子、金沢二水高校2年女子、大聖寺高校2年女子 [ファシリテーター] 金沢大学 山添 良太</p> <p>【グループ3】5名 金沢北陵高校3年女子、工業高校2年男子、小松工業高校1年男子、金沢二水高校2年女子、大聖寺高校2年女子 [ファシリテーター]</p>

	<p>金沢泉丘高校 岡部 誠</p> <p>【グループ4】 6名 金沢北陵高校3年女子、工業高校3年男子、小松商業高校2年女子、金沢二水高校2年男子、小松工業高校1年男子、七尾高校2年女子 〔ファシリテーター〕 (株)サイバーエージェント 中村 広毅</p> <p>【グループ5】 5名 金沢北陵高校3年女子、工業高校2年男子、小松商業高校2年女子、金沢二水高校2年男子、七尾高校2年女子 〔ファシリテーター〕 ストップイットジャパン(株) 谷山 大三郎</p>
--	---

主担当

北陸携帯電話販売店協会	池崎、谷村	全体調整、庶務、
安心ネットづくり促進協議会	源	事務局、庶務
羽衣学園	米田	司会
金沢大学	大学生	ファシリテーター
各地力団体、事業者、大学等		講演、ノベルティ、資料提供 他

(敬称略)

6. 高校生 ICT Conference 2016 in 長野 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 85 名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>《開会あいさつ》 (長野県教育委員会事務局 教育次長 菅沼 尚氏) 長野県は今回で2回目の開催となり、昨年度より多くの学校が参加した。今年のテーマは『ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】』ということにより具体的になり討議しやすいのではないかと。普段話す機会がない他校の高校生同士がこの機会に、横につながることを大事にしてほしい。この ICT カンファレンスにとどまらず、外部にも情報発信してほしい。ぜひ楽しみながら討議をしてほしい。</p> <p>《来賓あいさつ》 (総務省信越総合通信局 情報通信部電気通信事業課 課長 中島 淳氏) 総務省総合通信局ではインターネット指針やトラブル事例の紹介など、ネットの安心安全に取り組んでいる。ICT カンファレンスの機会を利用して高校生が自らインターネットについて積極的に考え、話し合いを深めていただくことを期待している。</p> <p>《第一部：事業者講演》 (ソフトバンク株式会社 約款・サービス部 氷見 彩乃氏) フィルタリングは高校生の安全利用に重要な機能だが、加入者が減少していること、スマートフォンは利便性が高いが犯罪被害にあうリスクもあり、あらためて高校生はフィルタリングの意義について考えてほしい。 2 つ目のテーマとして、人工知能が近い将来に人類を超える状況となる。そのような前提で進化し続ける道具をどう使っていくかを考えなければならない。</p> <p>(一般社団法人 インターネットコンテンツ審査機構 代表理事付・理事 西澤利治氏) どうすれば低年齢ユーザーにインターネットの安心安全リテラシーを指導できるかについて、一定の知識を持つ人、例えば大学生や高校生など年齢の近い「先輩」が地域のリーダーとして体験的に助言するのが有効と考える。ネットトラブルの対応には正解がない。解決策を考え見つけていくことが重要となる。</p> <p>《第二部：グループ発表》 Gグループ</p>
----	---

インターネットとスマホの危険性を技術面で解決できる問題（ウイルス感染やのっとり等）と人の意識で解決できる問題（スマホ依存等）に分類。解決策を議論する場を高校生が呼びかける場を設定。ICT カンファレンスの学校版を開催。ICT カンファレンスに出席している高校だけでなく、出席していない高校や小中学校にも広めていく。ウイルス感染など疑似体験できるアプリを企業と協同で開発したり、町と協同で歩きスマホの禁止区域を設定したり啓発ポスターを貼付する取組みを実施したい。スマホ世代が中心となって世の中のリテラシー向上に貢献していきたい。

（質問：ソフトバンク 石原氏）

参加していない高校や小中学校に ICT カンファレンスを広めるとあるが、具体的なアイデアは？

⇒昨年の取組みでは、動画を作成した。アイデアベースだが、啓発の歌を作成して様々な場所で流すというアイデアも考えられる。

Aグループ

スマホの課題を「ながらスマホ」「ネットでの悪口」「SNS写真」の3つの視点から具体的な解決策を議論した。「ながらスマホ」では、例えば歩きスマホを検知するとアプリが停止する機能を開発したり、歩きスマホ専用道路を作ってはどうかという意見が出た。「ネットでの悪口」に関しては、悪口を書かれたらどう思うか疑似体験してもらおう。特に小学校で実施したい。「SNS写真」では、SNSに写真を載せる際、すぐに載せるのではなく、アラートが出る仕組みをスマホに実装できないか。本当に載せてもよいかどうかを考えることが重要である。多くの人に知らせるために講演会やトラブル相談会等を実施し、今回のカンファレンスに参加していない学校にも知らせていきたい。

（質問：ソフトバンク 氷見氏）

講演会実施について具体例があれば教えてほしい？

⇒中学生に対して高校生の目線でリスクの注意点について実施したことがある。

Cグループ

個人情報流出を止めたいと考えている。4つの段階にわけて対応策を考えた。

- ①個人情報流出の具体例を知ってもらって、個人情報の大切さを知ってもらう。
- ②実際の流出事件に遭遇した場合、自分で変更できるメールアドレス等は変更する。流出させている犯人に対し情報の拡散をしないよう要請し、解決しない場合は警察に通報する。
- ③解決策を自分たちでパワーポイントや動画を作成して授業や講演会でプレゼンテーションする。ある高校ではルールブックをすでに作成している。
- ④発表する機会を先生や企業に作ってもらい、他校との連携や ICT カンファレンスを活用する。

(質問：インターネットコンテンツ審査監視機構 松原氏)

取組みを実行して広げていくために出来る具体策はあるか？

⇒ICT カンファレンスもよい機会。他校を訪問したり来てもらうアイデアもある。ルールブックを作成した経緯は？

⇒全校生徒にもっと浸透させたい思いがきっかけとなった。

Fグループ

問題をSNS、ネット依存、ネット詐欺に分類し議論した。ネット詐欺は疑似体験アプリを作成し、小学生や保護者に体験してもらう。例えば、店頭で契約する際、詐欺被害に合う割合で、体験が出るクジを実施してもらい、比較的多く被害に合うことを自覚してもらうことを考えた。また、携帯電話会社のCMに青少年対策の内容を加えてもらったり、ラップ調の歌(スマホの正しい使い方)を作成して様々な場所で流せば浸透するのではないか？

携帯電話会社にはフィルタリング付プランを設定してもらい、料金を安くしてもらうなど協力してほしい。例えば相談窓口の電話番号を事前に登録しておく等トラブルに強いスマホの開発もお願いしたい。安全なWi-Fiは総務省が認定しマークをつける等してほしい。アプリ事業者も危険な使い方をしている場合は注意喚起のポップアップが出るなど知らせる機能を作してほしい。大人、子どもの意識を高めるため高校生が率先して活動していきたい。

(質問：長野県警 新井氏)

トラブルの相談先は長野県警にもあることを知っているか？

⇒知っているが詳細はわからない。高校生が知るために目立つところに広告を出していただくのがよいと考える。他方、有害なサイトに自ら入ってトラブルに遭うケースなどは警察に相談しづらい。

Dグループ

ネットトラブルには依存やウイルス感染、個人情報の流出等がある。ネットは顔が見られず手口がわからないことが問題。それを予防する対処方法は相手を思いやり想像することが大切。また、授業に集中するため、授業中は預けるのが効果的と考える。個人情報の流出ではネットに書き込まないことを徹底する必要がある。迷惑メール等で流出するトラブルはフィルタリングの使用やメールを無視する等が必要。ルールを決めること、また何かトラブルにあった際は第三者に相談することも重要。この問題は無知の怖さを知る機会を作ることが大切と考えている。高校生が講演して被害の疑似体験をさせることは心に残ると思う。ネットトラブルは他人事ではなく誰の身にも起こり得ることだと伝えたい。

(質問：インターネットコンテンツ審査監視機構 松原氏)

無知を補完するために、理解させて知る機会を作るには具体的にはどうすればよいか？

⇒生徒会が周知して、講演を受けたり、疑似体験をしてもらうことが効果的と考え

ている。

Bグループ

受け身では成長しないため講演会を高校生が企画すればよいと考えた。ネットの問題は

①サイト（ワンクリック詐欺）②対人（炎上）③個人情報（流出）の3つに分けられる。③の個人情報に関しては SNS に個人情報を載せないことを発信し、流出した場合の疑似体験をさせればよい。②の炎上では言われて不快なことはしないことを徹底する。小中高が連携して家庭と学校で話し合いを行う。全員で向き合うことが大事。①のワンクリック詐欺に関しては、不当な請求は無視するなど周知していきたい。

大人を対象にスマホ講座を行い、疑似体験で現状を知ってもらうことが重要である。また ICT カンファレンスは高校生自らが主催していきたい。

（質問：総務省 中島氏）

小中高連携と家庭内対策の具体例があれば教えてほしい。

⇒中高の連携は出来ているが、スマホ利用の低年齢化が進む中で、小学生にスマホ利用の基礎を教えることが大切だと考える。家庭連携は例えば我が家では自分の部屋で使うことは禁止している。使用する時間等について各家庭でルールを作ることが大切と考える。

Eグループ

SNS の使い方や架空請求の問題を中心に考えた。予防、対策としては、企業に同意書を短く簡潔にしてもらうことが必要と思う。アプリのダウンロードの際、利用規約が出てくるが、長くて内容が難しく読まないで同意する人が大半である。リスク軽減のため簡略化してほしい。冊子では読まないのでもポスターや動画等、絵だけで伝わる啓発を作成する。クラス単位で被害に合う確率の当たりが入ったクジを引き、トラブルにクラスで何人合うか身近に感じてもらうことも効果的だと思う。また誰でもわかる簡単で覚えやすいキャッチフレーズを作成するアイデアもある。スマホは、授業中は回収がよい。スマホ世代である私たちが親や小中学生にそれらを伝えることでネットトラブルを回避させていきたい。

（質問：長野県 松村氏）

高校での取組みでは大人が作ったルールは抵抗があると思う。周りを巻き込むためのアイデアはあるか？

⇒スマホを授業中に回収することは、「授業をしっかりと受けよう」と生徒から出た意見だった。他校では PTA から回収の話が出たこともあると聞いている。

スマホのトラブル事例は作りづらいのではないか？

⇒ながらスマホや著作権侵害を扱ったことがある。

《講評》

(茨城県メディア教育指導員連絡会 会長 堤 千賀子氏)

長時間にわたる議論でも集中力が途切れず、またグループの打ち解けがとても早く感心した。グループ発表も大変工夫されていた。

企業講演の「シンギュラリティ」で人工知能が人間の脳細胞の数を超えるという時代を迎える話では皆さんの表情が変わった。皆さんは次の時代に挑戦していく世代であることを感じた。スマホを回収管理している学校があったが、辞書として使ったりもしている、手放せないものをみなさんに与えている責任は大人を含めて全員で考えなければならない。

カンファレンスに集まった生徒の皆さんはネットリテラシーを広げる使命感、正義感を持って参加した。バーチャルリアリティや芝居などで対策を広げていく手段を考えていた。自分たちが伝えることの効果に一番気がついている。ぜひ皆さんがさまざまなことを知り、知らない人に知らせてあげてほしい。また、皆さん自身もまだまだ知らないことがあると今回自覚できたと思う。多くを学び企業や県などに意見してほしい。自分がネットメディアでどう振る舞うべきなのかという課題からは逃げられない時代となる。

また、講習を受けるだけでは防げないこともある。「いじめ」でどう振る舞うか、どう啓発するか、逃げられない立場にある。道徳の授業を増やせば人の気持ちが変わるのか。一つの解決策として「リア充」がいいと思っている。現実には顔を見て情報交換をすることに勝るものは無い。

情報モラルに関して高校生のみなさんがいい社会を作ることにくじけず、みんなが人間フィルタリングになって、学んで、下の世代に伝えていくことを担ってほしい。

《閉会式、サミット代表発表》

(サミット代表 長野商業高校 森田 陽 さん)

長野県代表として自分が学んだこと、授業で学んだこと等を全国に伝えていきたい。

(閉会あいさつ 長野県教育委員会 心の支援課長 原 良通氏)

高校生のみなさんにとって、日ごろ知らない人たちと議論出来て貴重な体験になったのではないかと。同世代が一生懸命リアルなコミュニケーションで熟議を行っている姿を見て、みなさんの可能性や仲間と解決に向かうエネルギーを感じた。各自がフロントランナーになり、校内で具体的に活動してほしい。また自分の学校だけでなく周りの学校や本日参加の他校とも連携してほしい。みなさんが中心となって小中学生や保護者にリテラシー教育を行ってほしい。

参加校：

長野県伊那北高等学校
長野県茅野高等学校
長野県駒ヶ根工業高等学校
長野県高遠高等学校
長野県松本県ヶ丘高等学校

	長野県諏訪実業高等学校 長野県長野商業高等学校 長野県長野西高等学校 長野県長野東高等学校 長野県東御清翔高等学校 長野県明科高等学校 長野県木曾青峰高等学校 (順不同)
日 時 :	2016年10月1日(土) 10:00-17:00
場 所 :	安曇野市明科公民館(長野県安曇野市明科中川手6824番地1)
参加人数 :	熟議参加生徒 42人 見学者・関係者 43人(教員・教育関係者・その他) 合計:85人
熟議グループ :	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【グループA】 6名 長野県伊那北高等学校2年男子、長野県木曾青峰高等学校2年男子、長野県駒ヶ根工業高等学校2年男子、長野県茅野高等学校3年女子、長野県東御清翔高等学校2年女子、長野県長野西高等学校2年男子 [ファシリテーター] 株式会社サイバーエージェント メディアサポート室室長 中村 広毅 【グループB】 6名 長野県伊那北高等学校2年男子、長野県駒ヶ根工業高等学校2年男子、長野県東御清翔高等学校2年男子、長野県長野商業高等学校3年男子、長野県長野西高等学校2年男子、長野県長野東高等学校3年男子 [ファシリテーター] 高校人権教育研究委員 本田 真 【グループC】 6名 長野県伊那北高等学校2年女子、長野県駒ヶ根工業高等学校2年女子、長野県東御清翔高等学校3年男子、長野県長野商業高等学校3年男子、長野県駒ヶ根工業高等学校2年男子、長野県長野東高等学校3年男子 [ファシリテーター] 高校人権教育研究委員 召田 誠 【グループD】 5名 長野県駒ヶ根工業高等学校2年男子、長野県高遠高等学校3年男子、長野県長野商業高等学校3年男子、長野県長野西高等学校2年女子、長野県長野東高等学校3年女子、長野県松本県ヶ丘高等学校2年男子 [ファシリテーター] 信越総合通信局 岩田 章

	<p>【グループE】 6名 長野県明科高等学校3年女子、長野県駒ヶ根工業高等学校1年男子、長野県諏訪実業高等学校3年男子、長野県高遠高等学校3年男子、長野県長野西高等学校2年女子男子、長野県松本県ヶ丘高等学校2年男子</p> <p>〔ファシリテーター〕 上田市教育委員会 矢澤 智都枝</p> <p>【グループF】 6名 長野県明科高等学校3年女子、長野県木曾青峰高等学校2年女子、長野県諏訪実業高等学校3年男子、長野県高遠高等学校3年男子、長野県長野西高等学校2年男子、長野県松本県ヶ丘高等学校2年女子</p> <p>〔ファシリテーター〕 長野県県民文化部次世代サポート課 内山みのり</p> <p>【グループG】 6名 長野県明科高等学校3年男子、長野県木曾青峰高等学校2年男子、長野県駒ヶ根工業高等学校2年男子、長野県諏訪実業高等学校3年女子、長野県茅野高等学校3年女子、長野県長野商業高等学校3年男子</p> <p>〔ファシリテーター〕 高校人権教育研究委員 小林 嘉孝</p>
--	---

主担当

安心ネットづくり促進協議会		事務局、庶務
ソフトバンク株式会社	石原、氷見	運営アドバイザー、企業講演
(一社) インターネットコンテンツ審査監視機構	西澤	企業講演
株式会社サイバーエージェント	中村	ファシリテーター
各地力団体、自治体等		ファシリテーター、受付 他庶務

(敬称略)

7. 高校生 ICT Conference 2016 in 新潟 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 72 名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 高校生 ICT Conference 実行委員会 吉岡 良平 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを簡単に説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 内閣府 政策統括官（共生社会政策担当）付 参事官（青少年環境整備担当）付 専門官 大原 清明 様 高校生 ICT Conference の意義及び内閣府の役割についてもあわせて紹介いただきました。</p> <p>総務省 信越総合通信局 情報通信部 電気通信事業課 課長 中島 淳 様 総務省が毎年実施している通信利用動向調査結果についてとインターネットを「正しく使いこなす能力（リテラシー）」を伸ばして、「自分の判断や責任で、インターネット社会の荒波を乗り切る能力」を育てる・習得することの重要性及び本カンファレンスに期待する点について、お話をいただきました。</p> <p>第二部 事業者による講演</p> <p>LINE 株式会社 政策企画室 高橋 誠 様 「友だちとの言葉のやりとりで、トラブルにならないようにするために」という題名で講演してくださいました。 ネットトラブルの予防と対策の一例として"悪口"について考える内容で、「自分にとって嬉しい言葉でも悪口になる」「悪口とは、自分が言われて嫌な言葉ではなく"相手が嫌だと思ふ言葉"である」と話していただきました。</p> <p>株式会社ディー・エヌ・エー システム本部カスタマーサービス部長 西 雅彦様 「スマホやインターネット利用時のトラブル事例と回避策について」をテーマに講演してくださいました。</p> <p>参加校 学校紹介 および グループ分け 参加学校ごとに、簡単に学校紹介と自己紹介をしていただきました。 自己紹介の後、6 つのグループに分かれ、各グループ内で自己紹介などを実施しました。</p>
----	--

第二部：熟議「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」

グループに分かれ大学生がファシリテーターと書記を担当し、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。

また企業の方もサポーターとして入っていただきました。専門的な質問が出るとすばやく答えてくださいました。ファシリテーターは事前に進行やまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。（詳細は別紙「熟議録」をご参照ください）

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）

グループ1：「ネットトラブル防止」

・LINE 上でのトラブル（誤解 or 既読無視）

予防・対応策～わかりやすく伝える（文章の再確認、スタンプのみはやめる）

相手の立場に立つ、相手の真意を確認する

・盗撮、無断アップロード

予防・対応策～撮るとき載せるときは相手に許可を取る

・アプリ依存

予防・対応策～将来のことを考える（自分の意思を持つ、時間を決める、親に預ける）、「ご褒美システム」（やることをやったらネットを利用できる）を導入する

・まとめ～ネット上は他人に見られていることを忘れない、強い意志を持つことが大切

グループ2：「画像拡散について」

・ネット上での起こりうるトラブル（顔写真などの画像の拡散）

予防策～写真を載せない、写真を撮らせないなど

対応策～とりあえず画像を消してもらい相手に注意する

拡散されたらその時はあきらめるしかない

グループ3：「ネットトラブルの分類と対策」

・ネットトラブルを3つに分類する

① 規模が大きい事案

爆破予告、有名人への悪口・公開処刑動画等個人への影響は小さい

② 規模が中くらい

軽く傷つく～個人情報の流出

とても迷惑～アカウントの乗っ取り

③ 規模が小さい

グループラインでの無視・ツイッターの悪口（個人への影響が大きい）

・ 予防策

ほうれんそう（報告・連絡・相談）

フィルタリング、パスワードの強化、アカウントに鍵、警戒心を強くして情報漏洩を防ぐ、携帯を使わせない、直接言い合える環境づくり

・ 対応策

① 規模が大きい事案

例：爆破予告

身の安全確保など、周りの人に出来ることをする

② 規模が中くらい

例：アカウントの乗っ取り

詳しい人に相談、頼れる大人に助けを求める

③ 規模が小さい

例：SNS でケンカしたら…

携帯を使わず直接本音で話し合う

グループ 4 :

「ネット利用～自分たちの身の回りで起きている問題について考えよう」

・ LINE の問題（友達からの嫌がらせ、画像無断転載など）

その他の SNS の問題（個人情報の特定、なりすまし、著作権）

サイトやゲームでの問題

・ 予防策

ID、パスワードを複雑にしてアカウントの管理を厳重にする

知らないメールや電話は無視、又は即ブロック

一人で悩まず相談する

個人情報は載せない

相手の気持ちを考えて文面を打つ、写真は許可を取るなど

・ 対応策

迷惑行為→個人情報を答えない、迷惑メール等が多い場合はアドレスを変更する

プライバシー→相談所へ連絡、通報する

架空請求→親や信頼できる人に話す、無視する

ウイルス→ウイルスを消す、買い替える

写真・動画→許可なしに載せたものは削除する、勝手に載せない

悪口→言い返さない、自分が悪かったら素直に謝る

・ まとめ

どんなに予防してもネットトラブルをなくすことはできない。一度失敗したことや後悔したことは繰り返さないという心がけが大切だ。

グループ 5 :

「ネット上の会話での受け取り方のすれ違い」

	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブルの具体例： 語尾に『w』をつけなかったら、冗談で起こっている絵文字を付けたら、怒っていると勘違いされてしまった ・予防策 自分の言葉に責任を持つ ・対応策 柔らかい表現や顔文字を使うなど文章を工夫して気持ちを伝える 又は、携帯を使わず相手に直接伝える <p>グループ6：</p> <p>「LINEによるトラブル～個人情報流出～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予防策 写真を撮られた時点で友人にLINEに上げるか聞く 理解してもらうまでLINEのトーク内で会話を続ける ・対応策 LINEのIDを非公開に設定するなど ・まとめ 写真を上げるにしろメッセージを送るにしろ必ず「確認」することが大切 <p>その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、敬和学園高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>全体講評 敬和学園大学 教授 一戸 信哉 様 以下コメントをいただきました。</p> <p>「SNS やメッセージング、それぞれのツールの特徴をとらえて、どのように友だちとつながり、発信するべきなのか。現状を踏まえた非常によい議論が行われたように思います。学校の枠を超えて、さまざまな高校の皆さんが、このテーマでともに議論できた意義は大きいと思います。</p> <p>ただ最終的なプレゼンでの提案は、やや具体性やインパクトがかけていました。『予防』と『対策』についての具体的な提案は、非常に難しかったと思いますが、もう少し焦点をしばった提案をまとめることができれば、なおよかったと思います。」</p>
参加校：	新潟県立新潟南高等学校 新潟県立新津工業高等学校 敬和学園高等学校 新潟県立新津高等学校 新潟県立巻高等学校 新潟第一高等学校（順不同）
日 時：	2016年8月20日（土） 10:00-17:00
場 所：	ガレソンホール

	新潟市中央区花園1丁目2番2号 コープシティ花園[ガレッソ]
参加人数：	<p>熟議参加生徒 32人</p> <p>見学者・関係者 40人（教員・教育関係者・その他）</p> <p>合計：72人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【グループ1】6名 新潟第一高等学校1年女子、新潟県立新津工業高等学校3年男子、新潟第一高等学校1年男子、新潟県立新潟南高等学校2年男子、新潟県立巻高等学校1年男子、新潟県立新津高等学校1年男子 〔ファシリテーター〕 新潟大学 伊徳 まどか 〔書記〕 敬和学園大学 風間 未央</p> <p>【グループ2】6名 新潟県立新津高等学校1年女子、新潟県立新津工業高等学校2年男子、新潟県立新潟南高等学校1年男子、新潟第一高等学校1年男子、新潟第一高等学校1年女子、新潟第一高等学校1年女子 〔ファシリテーター〕 新潟大学 上野 愛里 〔書記〕 敬和学園大学 小林 明日香</p> <p>【グループ3】5名 新潟第一高等学校1年女子、新潟第一高等学校1年女子、新潟第一高等学校1年女子、敬和学園高等学校2年女子、新潟県立新津工業高等学校3年男子 〔ファシリテーター〕 長岡技術科学大学 城川 将司 〔書記〕 敬和学園大学 阿部 咲</p> <p>【グループ4】5名 新潟県立巻高等学校1年男子、新潟県立新津工業高等学校3年男子、新潟第一高等学校1年女子、新潟第一高等学校1年女子、敬和学園高等学校2年男子 〔ファシリテーター〕 新潟国際情報大学 山浦 圭介 〔書記〕 敬和学園大学 山川 沙羅</p> <p>【グループ5】5名</p>

<p>新潟第一高等学校 1年男子、新潟第一高等学校 2年男子、新潟県立巻高等学校 1年男子、新潟県立新津高等学校 1年男子、新潟第一高等学校 1年女子</p> <p>〔ファシリテーター〕</p> <p>敬和学園大学 齋藤 みなみ</p> <p>〔書記〕</p> <p>新潟国際情報大学 佐藤 ちひろ</p> <p>【グループ6】 5名</p> <p>新潟第一高等学校 1年男子、新潟県立新津高等学校 1年男子、新潟県立巻高等学校 1年男子、新潟第一高等学校 1年女子、新潟県立新津工業高等学校 2年男子</p> <p>〔ファシリテーター〕</p> <p>敬和学園大学 進藤 桜</p> <p>〔書記〕</p> <p>新潟国際情報大学 遠藤 里華</p>
--

主担当

新潟県サイバー脅威対策協議会 (事務局 新潟県警)	遠山、桑原、上野、 高橋 他	会場手配、庶務、受付、記録
安心ネットづくり促進協議会	白戸	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡	司会
株式会社ラック	落合	全体調整、記録
敬和学園大学	一戸	講評、ファシリテーター、書記調整
各地力団体、事業者、大学等		講演、ノベルティ、資料提供 他

(敬称略)

8. 高校生 ICT Conference 2016 in 東京 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 69 名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 常務理事・事務局長 吉岡 良平 様</p> <p>本日の高校生 ICT Conference の主旨や概要及びスケジュールなどについて簡単に説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 経済産業省 情報経済課 課長補佐 岡北 有平 様</p> <p>高校生が日頃から自分の頭で考えることの重要性や本日の高校生 ICT Conference を楽しんで参加してほしいなどのお言葉をいただきました。</p> <p>消費者庁 消費者政策課 政策企画専門官 清木 美帆 様</p> <p>高校生 ICT Conference への期待や、目覚ましい発展をしているインターネット社会で、リテラシーの高い高校生が上の世代から下の世代への橋渡し役になってもらいたいなどのお言葉をいただきました。</p> <p>その他、ご参観いただいている省庁や地方自治体の方々のご紹介がありました。</p> <p>第一部：「事業者講演」 グリー株式会社 安心安全チームマネージャー 小木曾 健 様</p> <p>「ネットトラブルって何!？」</p> <p>ネットトラブルとは何なのか、ネット炎上させてしまったらどうしたらよいのか、また、歩きスマホやスマホ依存を例に出して、それはそもそもどういった問題であるのか、どのように議論していくべきなのかといった本日の議論のヒントになるような内容のお話をしていただきました。参加した生徒や参観の方々もしっかりとメモを取りながら話を聞いていました。</p> <p>グループ分け、自己紹介</p> <p>学校毎に、発声練習も兼ねて、学校紹介、自己紹介をしていただきました。(順不同)</p> <ul style="list-style-type: none">・水戸葵陵高等学校・和光学園和光高等学校・桜丘中学・高等学校
----	---

- ・水城高等学校
- ・埼玉県立浦和高等学校
- ・東京都立農芸高等学校

その後、ファシリテーター、書記の紹介をしてから高校生のグループ分けを行ない、4つのグループに分かれました。

第二部：熟議「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」

グループに分かれ4名の方等がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。細かなテーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。

また企業の方もサポーターとして入っていただきました。専門的な質問が出るとすばやく答えてくださいました。事前にフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。

(詳細は別紙「熟議録」をご参照ください)

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して4分程度の発表を行いました。(詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください)

ネット教育アナリスト 尾花 紀子 様

今年度、高校生 ICT Conference も6年目を迎え、いろいろな思いで各グループの議論や発表を聞いていたとのことで、各グループの熟議、発表について1つ1つポイントを挙げながら、以下のようなコメントをいただきました。

グループ1：思い込みがダメであるということに印象が残った。誤解が無いようにしていくことが必要である。

グループ2：ネットトラブルの対策と事例をうまくまとめており、気持ちを強く持って相手の立場になって考えてみようということが印象に残った。

グループ3：高校生による講演会や高校生が相談に行きたいと思うような窓口を作るとことが印象に残った。OB・OGとして高校生 ICT Conference に戻って来てほしい。

グループ4：人間がアクションしようということが印象に残った。思っているだけでなく、声にして言葉にしてやってみることも大切。

全体としては、表裏比興のもの話を喩に、インターネットは扱う人や使い方によって変わるものであり、被害者・加害者のどちらにもなり得ることがどのグループの議論の中でも出てきていたことに触れて、自分で考えることが必要であるとい

	<p>うことがそれぞれの発表の中にも出てきていて非常に心強く感じたこと、そして、自分のグループだけでなく他のグループが発表した内容もぜひ今後に生かしてほしいという貴重なお話をいただきました。</p> <p>その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日に開催されるサミットの代表選考を行い、水城高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p>
参加校：	<p>水戸葵陵高等学校、和光学園和光高等学校 桜丘中学・高等学校、水城高等学校 埼玉県立浦和高等学校、東京都立農芸高等学校</p>
日 時：	2016年9月4日（日）10:00-17:00
場 所：	東京ユビキタス協創広場 CANVAS（内田洋行）
参加人数：	<p>熟議参加生徒 20人 見学者 51人（教員・教育関係者・その他） 合計： 71人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【第1班】5人 埼玉県立浦和高等学校 2年 男子 水戸葵陵高等学校 2年 男子 水戸葵陵高等学校 2年 男子 水城高等学校 2年 男子 水城高等学校 2年 女子 〔ファシリテーター〕 お茶の水女子大学 教授 猪俣登美子 〔書記〕 学生団体 Re:inc 亀岡 優輔</p> <p>【第2班】5人 水城高等学校 2年 男子 水城高等学校 2年 女子 桜丘中学・高等学校 2年 男子 水戸葵陵高等学校 1年 男子 水戸葵陵高等学校 1年 女子 〔ファシリテーター〕 JSSEC 菅野 泰彦 〔書記〕 学生団体 Re:inc 窪田 大吾</p> <p>【第3班】5人 桜丘中学・高等学校 2年 男子</p>

<p>東京都立農芸高等学校 1年 女子 水戸葵陵高等学校 1年 男子 水戸葵陵高等学校 1年 女子 和光学園和光高等学校 1年 男子 〔ファシリテーター〕 鎌倉女学院 教諭 佐藤 正二 〔書記〕 EMA 宮本 真紀</p> <p>【第4班】5人 水戸葵陵高等学校 3年 男子 埼玉県立浦和高等学校 2年 男子 水城高等学校 1年 男子 東京都立農芸高等学校 1年 女子 水城高等学校 1年 女子 〔ファシリテーター〕 EMA 藤川 由彦 〔書記〕 中央大学 小林 眞理絵</p>

主担当

モバイルコンテンツ審査・運用監視機構	藤川、清水 野沢他	会場、ファシリテーター、受付、 庶務 等
安心ネットづくり促進協議会	高橋	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡、工藤	司会、受付、庶務
各地協力団体、事業者、大学等		挨拶、講演、ファシリテーター、 書記、庶務 他

(敬称略)

9. 高校生 ICT Conference 2016 in 神奈川 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など105名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 法特定非営利活動法人 NPO 情セキュリティフォーラム 理事・事務局長 植田 威 様</p> <p>本日の高校生 ICT Conference の主旨や概要及び本日のスケジュールなどについて簡単に説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 内閣府 政策統括官（共生社会政策担当）付青少年インターネット環境整備担当 専門官 大原 清明 様</p> <p>高校生 ICT カンファレンスの意義や目的についてお話し頂き、本日の議論の後も続けて頂きたいとお言葉をいただきました。</p> <p>総務省 関東総合通信局 情報通信部 部長 須田 秀晴 様</p> <p>関東総合通信局の事業内容や、ネットトラブルに対する取り組みについて説明頂き、本日の高校生 ICT Conference への期待していることなどのお話しをいただきました。</p> <p>第一部：「事業者講演」 株式会社ディー・エヌ・エー システム本部カスタマーサービス部 チームリーダー 浅川 美保 様</p> <p>「スマホやインターネット利用時のトラブル事例と回避策について」 インターネットの今後の発展にあわせて、 出会い、個人情報管理、情報発信、コミュニケーショントラブルなど事例を紹介しながら説明頂き、回避策について講義頂きました。</p> <p>グリー株式会社 安心安全チームマネージャー 小木曾 健 様</p> <p>「ネットトラブルって何!？」</p> <p>ネットトラブルとは何なのか、ネット炎上させてしまったらどうしたらいいのか、また、歩きスマホやスマホ依存を例に出して、それはそもそもどういった問題であるのか、どのように議論していくべきなのかといった本日の議論のヒントになるような内容のお話をしていただきました。</p> <p>2社の講演ともに、参加した生徒や参観の方々もしっかりとメモを取りながら話を聞いていました。</p>
----	---

参加校紹介 および グループ分け

学校毎に、学校紹介自己紹介をしていただきました。(順不同)

クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス

鎌倉女学院高等学校

山手学院中学校・高等学校

神奈川県立綾瀬西高校

聖セシリア女子高等学校

神奈川県立横浜国際高等学校

神奈川県立藤沢清流高等学校

神奈川県立大和南高等学校

神奈川県立相模原総合高等学校

湘南工科大学附属高等学校

神奈川県立光陵高等学校

学校紹介終了後、参加生徒を9つのグループに分け、その後ファシリテーターおよび書記の紹介し、各グループに分かれ熟議を開始いたしました。

第二部：熟議「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」

グループに分かれ、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。高校生が主体となって意見を出し合っているグループや、ファシリテーターのアドバイスを取り入れながら進めるグループなどグループによって進め方は異なりますが、それぞれ活発な議論かわされました。

予防と対策については、テーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。

また企業の方もサポーターとして入っていただき、専門的な質問が出るとすばやく答えてくださいました。

(詳細は別紙「熟議録」をご参照ください)

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分の発表を行いました。

(詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください)

国立教育政策研究所 総括客員研究員 笹井 宏益 様

スマホやタブレットの出現で、情報の収集やコミュニケーションが自由に簡単にどこでもできるようになった現在は、自分で考えて行動する事が重要であることについてお話し頂きました。

その後、引率の先生と各校の生徒代表、ファシリテーターが集まり、11月3日に開催されるサミットの代表選考を行い、神奈川県立光陵高等学校が代表校に選出され、発表されました。

参加校：	<p>クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス、鎌倉女学院高等学校 山手学院中学校・高等学校、神奈川県立綾瀬西高校 聖セシリア女子高等学校、神奈川県立横浜国際高等学校 神奈川県立藤沢清流高等学校、神奈川県立大和南高等学校 神奈川県立相模原総合高等学校、湘南工科大学附属高等学校 神奈川県立光陵高等学校</p>
日時：	2016年9月11日（日）10:00-17:00
場所：	学校法人岩崎学園
参加人数：	<p>熟議参加生徒 53人 見学者 52人（教員・教育関係者・その他） 合計： 105人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【第1班】6人 鎌倉女学院高等学校 1年 女子 鎌倉女学院高等学校 2年 女子 クラーク記念国際高等学校 3年 男子 神奈川県立横浜国際高等学校 1年 女子 神奈川県立綾瀬西高校 2年 男子 山手学院中学校・高等学校 2年 女子 〔ファシリテーター〕 神奈川県 私学振興課 内藤 哲也 〔書記〕 お茶の水女子大学 佐々 日向子</p> <p>【第2班】6人 神奈川県立横浜国際高等学校 1年 女子 山手学院中学校・高等学校 2年 女子 神奈川県立綾瀬西高校 1年 男子 神奈川県立大和南高等学校 3年 男子 聖セシリア女子高等学校 2年 女子 鎌倉女学院高等学校 2年 女子 〔ファシリテーター〕 神奈川県立総合教育センター 相原 健右 〔書記〕 東京都立大学 野村 茉希</p> <p>【第3班】6人 山手学院中学校・高等学校 2年 女子 聖セシリア女子高等学校 2年 女子 神奈川県立大和南高等学校 3年 女子 神奈川県立綾瀬西高校 1年 男子</p>

湘南工科大学附属高等学校 1年 女子
鎌倉女学院高等学校 2年 女子
〔ファシリテーター〕
神奈川県立総合教育センター 小澤 美紀
〔書記〕
NPO情報セキュリティフォーラム 中島 尚樹

【第4班】6人

湘南工科大学附属高等学校 2年 男子
鎌倉女学院高等学校 2年 女子
聖セシリア女子高等学校 2年 女子
山手学院中学校・高等学校 1年 女子
神奈川県立大和南高等学校 2年 男子
神奈川県立藤沢清流高等学校 1年 男子
〔ファシリテーター〕
神奈川県教育委員会 橋本 雅史
〔書記〕
NPO情報セキュリティフォーラム 西部 裕子

【第5班】6人

山手学院中学校・高等学校 3年 女子
神奈川県立藤沢清流高等学校 1年 男子
神奈川県立大和南高等学校 3年 男子
湘南工科大学附属高等学校 1年 女子
聖セシリア女子高等学校 2年 女子
鎌倉女学院高等学校 2年 女子
〔ファシリテーター〕
情報科学専門学校 川上 隆
〔書記〕
情報科学専門学校 末吉 速人

【第6班】6人

神奈川県立相模原総合高等学校 1年 男子
神奈川県立大和南高等学校 2年 女子
神奈川県立横浜国際高等学校 2年 男子
鎌倉女学院高等学校 1年 女子
神奈川県立藤沢清流高等学校 1年 男子
聖セシリア女子高等学校 1年 女子
〔ファシリテーター〕
学校法人岩崎学園 西木 祐子
〔書記〕

情報科学専門学校 上月 遼

【第7班】6人

神奈川県立綾瀬西高校 2年 男子

神奈川県立相模原総合高等学校 3年 男子

聖セシリア女子高等学校 1年 女子

神奈川県立横浜国際高等学校 2年 女子

鎌倉女学院高等学校 1年 女子

神奈川県立藤沢清流高等学校 1年 男子

〔ファシリテーター〕

岩崎学園 横浜デジタルアーツ専門学校 今野 友行

〔書記〕

情報科学専門学校 保田 衛一

【第8班】6人

聖セシリア女子高等学校 1年 女子

神奈川県立綾瀬西高校 2年 女子

鎌倉女学院高等学校 1年 女子

神奈川県立横浜国際高等学校 2年 男子

クラーク記念国際高等学校 2年 男子

神奈川県立光陵高等学校 3年 男子

〔ファシリテーター〕

学校法人岩崎学園 柿本 圭介

〔書記〕

情報科学専門学校 工藤 和輝

【第9班】5人

鎌倉女学院高等学校 1年 女子

クラーク記念国際高等学校 2年 男子

神奈川県立横浜国際高等学校 2年 男子

聖セシリア女子高等学校 1年 女子

神奈川県立綾瀬西高校 2年 男子

〔ファシリテーター〕

デジタルアーツ株式会社 工藤陽介

〔書記〕

情報科学専門学校 野口 英治

主担当

NPO情報セキュリティフォーラム	植田、廣瀬他	会場、会場設営、司会、ファシリテーター、書記、庶務 等
安心ネットづくり促進協議会	白戸、高橋	事務局、庶務
モバイルコンテンツ審査・運用監視機構	清水、野沢	会場、受付、庶務 等
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会		庶務
各地協力団体、事業者、大学等		挨拶、講演、ファシリテーター、書記、 他

(敬称略)

10. 高校生 ICT Conference 2016 in 静岡 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 48 名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】</p> <p>司会進行・主旨説明</p> <p>学校法人中村学園 専門学校 静岡電子情報カレッジ 中村 健太郎 様</p> <p>高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを簡単に説明いただきました。</p> <p>開会の挨拶</p> <p>学校法人中村学園 専門学校 静岡電子情報カレッジ 理事 中村 徹 様</p> <p>本日は高校生同士で意見交換する場。どんどん意見交換してもらい、学校に戻ってから是非内容を仲間とシェアし、自分の今後の人生の中で生かしていただきたい。代表になった学校は静岡県の声を全国に届けてほしい。</p> <p>とお言葉をいただきました。</p> <p>総務省 東海総合通信局 情報通信部電気通信事業課長 深津 徹 様</p> <p>以下お話しいただきました。</p> <p>インターネット利用を巡るトラブルや被害等の増加、サイバー攻撃の多様化により、安全に利用するためには、インターネット利用にかかるリテラシーがより一層必要となっています。総務省では啓発講座「e-ネットキャラバン」や「青少年のインターネット・リテラシー指標によるテスト調査」を高校生向けに毎年実施しています。</p> <p>本日は皆さんがインターネットの安全利用のために必要なマナーやモラルを考え、きっかけとなってもらえればと思います。</p> <p>消費者庁 消費者政策課 主査 吉川 雄一朗 様</p> <p>以下お話しいただきました。</p> <p>消費者庁ではインターネット利用を巡る消費者トラブルに対応する制度作りや悪質な業者の取り締まり、相談窓口を行う事業者や団体との連携などを進めています。</p> <p>消費者自身も安全利用について考え、実践することが必要です。本日は是非いろいろな意見を交換してほしいと思います。</p> <p>第三部 事業者による講演</p> <p>LINE 株式会社 政策企画室 高橋 誠 様</p> <p>「友だちとの言葉のやりとりで、トラブルにならないようにするために」という題名で講演してくださいました。</p>
----	--

ネットトラブルの予防と対策の一例として"悪口"について考える内容で、「自分にとって嬉しい言葉でも悪口になる」「悪口とは、自分が言われて嫌な言葉ではなく"相手が嫌だと思ふ言葉"である」と話していただきました。

浜松子どもとメディアリテラシー研究所 理事長 長澤 弘子 様

「あなたは どうする?～ネットでのコミュニケーション～」をテーマに『想像する』練習のための旗挙げゲームを取り混ぜながら講演していただきました。

参加校 学校紹介 および グループ分け

参加学校ごとに、簡単に学校紹介と自己紹介をしていただきました。自己紹介の後、4つのグループに分かれ、各グループ内で自己紹介などを実施しました。

第二部：熟議「ネットトラブル! どうする?【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」

グループに分かれ中村学園スタッフ、企業、団体、大学生がファシリテーターを担当し、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。ファシリテーターは事前に進行やまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。(詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください)

その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、静岡市立清水桜が丘高等学校が代表校に選出され、発表されました。

全体講評 NPO情報セキュリティフォーラム 理事 植田 威 様

まず、事業者ミニ講話とグループ発表の振り返りをしていただきました

A班・・・自ら行う予防・対策、他者による予防・対策について

B班・・・スマ検の導入と法律の改定、情報教育の見直しについて

C班・・・身近なトラブルとその予防事例・対策、相談について

D班・・・LINE、迷惑メール、SNS、詐欺被害、個人情報、著作権、違法DLについて

その後、植田様自身の気づき、学びについてもコメントいただきました。

- － 静岡の高校生の頼もしさを感じました
- － 道具はうまく使おう (道具を使う目的を意識)
- － 自己肯定感を育もう
- － 自ら対処できる判断力：気づきからの学び

	<p>ー 日頃のコミュニケーションの大切さ</p> <p>最後に、夢を持って、それをいろいろな人に語れるようになってほしい。</p> <p>そのコミュニケーションを通じて自身の適用能力や他者を理解することにつながります。本日の参加者が将来は OB、OG として運営スタッフとして戻ってきていただけると嬉しいです。</p> <p>とのお言葉をいただきました。</p>
参加校：	<p>静岡県私立城南静岡高等学校</p> <p>静岡市立清水桜が丘高等学校</p> <p>静岡高等学校</p> <p>静岡県立駿河総合高等学校</p> <p>静岡県立浜松城北工業高等学校</p> <p>静岡北高等学校 (順不同)</p>
日時：	2016年9月25日(日) 10:00-17:00
場所：	<p>専門学校 静岡電子情報カレッジ</p> <p>森下町キャンパス 静岡市駿河区森下町 4-25</p>
参加人数：	<p>熟議参加生徒 22人</p> <p>見学者・関係者 26人(教員・教育関係者・その他)</p> <p>合計：48人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略)</p> <p>【グループ1】5名</p> <p>静岡県立浜松城北工業高等学校1年男子、静岡県立浜松城北工業高等学校1年男子、静岡県立浜松城北工業高等学校2年男子、静岡県私立城南静岡高等学校3年男子、静岡北高等学校2年男子</p> <p>〔ファシリテーター〕</p> <p>専門学校 静岡電子情報カレッジ 高橋 卓也</p> <p>【グループ2】6名</p> <p>静岡県立浜松城北工業高等学校1年男子、静岡県立浜松城北工業高等学校1年男子、静岡県立浜松城北工業高等学校1年男子、静岡県私立城南静岡高等学校3年女子、静岡高等学校2年男子、静岡市立清水桜が丘高等学校2年男子</p> <p>〔ファシリテーター〕</p> <p>ストップイトジャパン株式会社 谷山 大三郎</p> <p>【グループ3】6名</p> <p>静岡高等学校1年男子、静岡県立浜松城北工業高等学校2年男子、静岡県立浜松城北工業高等学校2年男子、静岡県立浜松城北工業高等学校2年男子、静岡県立駿河総合高等学校1年男子、静岡県立浜松城北工業高等学校2年男子</p> <p>〔ファシリテーター〕</p>

	<p>NPO 法人浜松子どもとメディアリテラシー研究所 長澤 弘子</p> <p>【グループ4】 5名</p> <p>静岡県立浜松城北工業高等学校2年男子、静岡県立浜松城北工業高等学校1年男子、 静岡県立浜松城北工業高等学校1年男子、静岡市立清水桜が丘高等学校2年女子、 静岡県立駿河総合高等学校1年男子</p> <p>[ファシリテーター]</p> <p>静岡大学 小澤 可奈子</p>
--	---

主担当

安心ネットづくり促進協議会	白戸	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡、工藤	庶務
専門学校 静岡電子情報カレッジ	中村、小林、有賀	司会、庶務
各地力団体、事業者、大学等		講演、ノベルティ、資料提供、ファシリテーター、受付 他

(敬称略)

11. 高校生 ICT Conference 2016 in 大阪 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など91名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 大阪私学教育情報化研究会 副会長 米田謙三様 本日の高校生 ICT Conference の主旨や概要及びスケジュールなどについて簡単に説明していただきました。</p> <p>文部科学省生涯学習政策局青少年教育課 青少年有害環境対策専門官 佐藤 貴 様 文部科学省と高校生 ICT Conference の関係や高校生への期待、大会後の取り組みなどについて、お話をいただきました。</p> <p>第一部：「事業者講演」 一般社団法人・情報教育研究所 代表理事 永坂 武城 様 「本当の原因はなんだろう？」 ネットトラブルとは何なのか、事例を踏まえて説明頂き、予防と対策を行うには、原因の本質を考える事が重要であり、本質が見抜ければ、常識が変化しても対応できることを教えていただきました。</p> <p>株式会社サイバーエージェント メディアサポート室 室長 中村 広毅 様 「ネットトラブル ～Ameba での事例～」 Ameba のサービスの中で実際に発生した事例をもとに、ネットトラブル発生の詳細、また Ameba での対処方法の説明、実際に Web を見ながら講演を行っていただきました。</p> <p>プレゼンの内容をしっかり参加生徒はメモをとりながら次の熟議に備えていました。プレゼンの内容も 現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案などいろいろなアイデアが盛り込まれていて大変有意義なものでした。</p> <p>ファシリテーター・参加校紹介 および グループ分け ファシリテーターを務める大学生から本日の目標と担当グループの発表が行われ、その後、参加学校ごとに、簡単に学校紹介と自己紹介をしていただきました。 (順不同)</p> <ul style="list-style-type: none">・羽衣学園高校・関西学院千里国際高等部・大阪府立今宮高等学校
----	---

- ・神戸大学附属中等教育学校
- ・東海大学付属仰星高等学校
- ・兵庫県立千種高等学校
- ・大阪市立東高等学校
- ・大阪府立旭高等学校
- ・大阪府立東百舌鳥高等学校
- ・奈良県立奈良朱雀高等学校

その後、グループ分けを行ない、7つのグループに分かれました。

アイスブレイク、熟議注意点説明

大阪府立東百舌鳥高等学校 勝田先生

名前リレーで自己紹介しながら緊張をほぐした後、午後の熟議に向け説明いただきました。

第二部：熟議「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」

グループに分かれ大学生がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。ネットトラブルをメモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。予防・対策については、テーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。

熟議の中で分からない事は、企業の方もサポーターとして入っていただき、すばやく教えてくださいました。

今回、ファシリテーターは大学生でしたが、事前にフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。

(詳細は別紙「熟議録」をご参照ください)

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分の発表を行いました。(詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください)

講評：総務省 近畿総合通信局 電気通信事業課 課長 原 彰宏 様

インターネットを上手使う事が大切であり、今回のように、自分の周りで起こっていることを話し合い、まとめ、発表する事は有意義である。

大人はネットの仕組みトラブルを知らないの、実際に使っている皆さまに教えてもらいたい。

今回話し合った事を、学校に戻って話しあってほしい。

その後、引率の先生と各校の生徒代表、ファシリテーターが集まり、11月3日に開催されるサミットの代表選考を行い、大阪府立東百舌鳥高等学校が代表校に選出

	され、発表されました。
参加校：	羽衣学園高校、関西学院千里国際高等部 大阪府立今宮高等学校、神戸大学附属中等教育学校 東海大学付属仰星高等学校、兵庫県立千種高等学校 大阪市立東高等学校、大阪府立旭高等学校 大阪府立東百舌鳥高等学校、奈良県立奈良朱雀高等学校
日 時：	2016年8月28日（日）10:00-17:00
場 所：	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS（内田洋行）
参加人数：	熟議参加生徒 49人 見学者 42人（教員・教育関係者・その他） 合計： 91人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【第1班】6人 大阪府立東百舌鳥高等学校 3年 男子 羽衣学園高校 3年 女子 大阪府立旭高等学校 3年 女子 大阪市立東高等学校 2年 男子 神戸大学附属中等教育学校 2年 女子 東海大学付属仰星高等学校 2年 男子 〔ファシリテーター〕 関西大学 林 千尋 池西 風美 〔書記〕 【第2班】7人 大阪府立東百舌鳥高等学校 3年 女子 神戸大学附属中等教育学校 2年 男子 兵庫県立千種高等学校 2年 男子 大阪市立東高等学校 2年 女子 関西学院千里国際高等部 2年 女子 羽衣学園高校 2年 女子 羽衣学園高校 2年 女子 〔ファシリテーター〕 関西大学 小篠 弘奈 〔書記〕 奈良学園大学 岩本 香澄 【第3班】6人 関西学院千里国際高等部 2年 女子 大阪府立東百舌鳥高等学校 3年 女子

神戸大学附属中等教育学校 1年 男子
大阪市立東高等学校 2年 男子
羽衣学園高校 3年 女子
兵庫県立千種高等学校 2年 女子
〔ファシリテーター〕
近畿日本鉄道(株) 畠平誠也
〔書記〕

【第4班】6人

羽衣学園高校 3年 女子
大阪府立今宮高等学校 3年 女子
大阪市立東高等学校 1年 女子
兵庫県立千種高等学校 2年 女子
神戸大学附属中等教育学校 1年 男子
神戸大学附属中等教育学校 2年 男子
〔ファシリテーター〕
関西大学 小島 里香
木下 健児
〔書記〕

【第5班】6人

兵庫県立千種高等学校 2年 男子
神戸大学附属中等教育学校 2年 男子
神戸大学附属中等教育学校 2年 女子
大阪府立今宮高等学校 3年 女子
羽衣学園高校 3年 男子
羽衣学園高校 3年 女子
〔ファシリテーター〕
帝塚山大学 大宅 穂香
〔書記〕

【第6班】6人

大阪府立旭高等学校 3年 女子
大阪府立今宮高等学校 3年 女子
奈良県立奈良朱雀高等学校 3年 男子
大阪市立東高等学校 3年 女子
神戸大学附属中等教育学校 2年 男子
羽衣学園高校 3年 男子
〔ファシリテーター〕
大阪工業大学 増井 宏昌

	<p>〔書記〕 神戸親和女子大学 原 英莉</p> <p>【第7班】6人 羽衣学園高校 3年 女子 東海大学付属仰星高等学校 2年 女子 神戸大学附属中等教育学校 1年 女子 大阪府立今宮高等学校 3年 男子 大阪府立旭高等学校 2年 男子 大阪市立東高等学校 2年 男子</p> <p>〔ファシリテーター〕 関西大学 北垣 貴寛 関西大学 反田 愛</p> <p>〔書記〕 関西大学 反田 愛</p>
--	---

主担当

大阪私学教育情報化研究会	岡本 他	会場、ファシリテーター育成、受付、庶務 等
安心ネットづくり促進協議会	高橋	事務局、庶務
各地協力団体、事業者、大学等		挨拶、講演、ファシリテーター、書記、庶務 他

(敬称略)

12. 高校生 ICT Conference 2016 in 奈良 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など74名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 奈良県立 香芝高等学校 教諭 川下 優一 様</p> <p>本日の高校生 ICT Conference の主旨や概要及び本日のスケジュールなどについて簡単に説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 総務省 近畿総合通信局 電気通信事業課 課長 原 彰宏 様</p> <p>総務省の取り組みを説明頂き、本日の高校生 ICT Conference への期待していること、意義や目的についてお話しいただきました。</p> <p>帝塚山大学 学長 岩井 洋</p> <p>ICT を取り巻く環境変化の中で、本日の高校生 ICT Conference の重要性や期待についてお話しをいただき、ネットトラブルを入口に、さらに未来に向けて視野を広げながら議論してもらいたい。とのお話しを頂きました。</p> <p>第一部：「事業者講演」 NTT ドコモ スマホ・ケータイ安全教室 インストラクター 平野 ゆかり 様</p> <p>「スマートフォンでのトラブルを防ぐには」 情報発信・公開についてトラブル事例を紹介しながら説明頂き、トラブルに巻き込まれないための対策について講義頂きました。</p> <p>デジタルアーツ株式会社 経営企画部 政策担当課長 チーフエバンジェリスト 工藤陽介 様</p> <p>「たくさん意見の出る「予防」あまり意見の出ない「対策」」 今年の高校生 ICT Conference のテーマに対して、 動画投稿や出会い系被害のトラブル事例を中心に、予防や対策の例を示しながら、議論のヒントを加えてお話をしていただきました。</p> <p>2社の講演ともに、参加した生徒や参観の方々もしっかりとメモを取りながら話を聞いていました。</p> <p>参加校紹介 および グループ分け 学校毎に、自己紹介をしていただきました。(順不同)</p> <p>関西中央高等学校 奈良県立奈良朱雀高等学校</p>
----	---

	<p>奈良県立大和広陵高等学校 奈良県立香芝高等学校 奈良県立王寺工業高等学校 奈良県立奈良情報商業高等学校 大阪府立東百舌鳥高等学校</p> <p>学校紹介終了後、参加生徒を6つのグループに分け、その後ファシリテーターおよび書記の紹介し、各グループに分かれ熟議を開始いたしました。</p> <p>第二部：熟議「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」</p> <p>グループに分かれ高校生 ICT Conference OB,OG がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。ネットトラブルをメモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。予防・対策については、テーマにしぼった班や複数のテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。</p> <p>今回、ファシリテーターは OB,OG でしたので、和やかな雰囲気高校生たちの率直な意見をたくさん引き出せていました。</p> <p>ファシリテーターが、事前にフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。</p> <p>(詳細は別紙「熟議録」をご参照ください)</p> <p>第三部：グループ発表</p> <p>各グループともプレゼンテーションソフトを活用して 3 分の発表を行いました。 (詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください)</p> <p>帝塚山大学 経営学部・経営情報学部 教授 日置 慎治 様</p> <p>各グループ発表のポイントを一つ一つ講評を頂いた他、全体の発表のまとめとして「ネットトラブルとは言え、人間関係が大切」とのお言葉を頂きました。</p> <p>最後に、「熟議とは、実践しなげりゃ、意義半減」俳句を入れながら、考えた事を行動する事が重要であることについてお話し頂きました。</p> <p>その後、引率の先生と各校の生徒代表、ファシリテーターが集まり、11月3日に開催されるサミットの代表選考を行い、奈良県立王寺工業高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p>
参加校：	関西中央高等学校、奈良県立奈良朱雀高等学校、奈良県立大和広陵高等学校 奈良県立香芝高等学校、奈良県立王寺工業高等学校 奈良県立奈良情報商業高等学校、大阪府立東百舌鳥高等学校
日 時：	2016年10月2日(日) 10:00-17:00
場 所：	帝塚山大学 東生駒キャンパス
参加人数：	熟議参加生徒 30人 見学者 44人(教員・教育関係者・その他)

	合計： 74人
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略)</p> <p>【第1班】 5人</p> <p>奈良県立奈良朱雀高等学 2年 女子 奈良県立奈良情報商業高等学校 3年 男子 奈良県立王寺工業高等学校 1年 男子 奈良県立大和広陵高等学校 2年 男子 奈良県立大和広陵高等学校 3年 男子</p> <p>〔ファシリテーター〕 大阪工業大学 増井 宏昌 〔書記〕 関西大学 北垣 貴寛</p> <p>【第2班】 5人</p> <p>奈良県立王寺工業高等学校 1年 男子 関西中央高等学校 1年 男子 奈良県立大和広陵高等学校 3年 男子 奈良県立大和広陵高等学校 1年 男子 奈良県立奈良情報商業高等学校 1年 女子</p> <p>〔ファシリテーター〕 近畿日本鉄道(株) 畠平 誠也 〔書記〕 関西大学 池西 風美</p> <p>【第3班】 5人</p> <p>奈良県立奈良朱雀高等学 2年 男子 奈良県立大和広陵高等学校 3年 男子 奈良県立王寺工業高等学校 1年 男子 関西中央高等学校 1年 男子 奈良県立奈良情報商業高等学校 1年 女子</p> <p>〔ファシリテーター〕 大阪工業大学 上村 祐介 〔書記〕 関西大学 小篠 弘奈</p> <p>【第4班】 5人</p> <p>奈良県立王寺工業高等学校 1年 男子 関西中央高等学校 1年 男子 奈良県立奈良朱雀高等学 1年 男子 奈良県立奈良朱雀高等学 1年 男子 奈良県立奈良情報商業高等学校 1年 女子</p>

	<p>〔ファシリテーター〕 大阪電気通信大学 山口 達也</p> <p>〔書記〕 関西大学 林 千尋</p> <p>【第5班】5人 奈良県立香芝高等学校 2年 女子 関西中央高等学校 1年 男子 奈良県立奈良情報商業高等学校 1年 男子 奈良県立奈良朱雀高等学 2年 男子 奈良県立奈良朱雀高等学 3年 男子</p> <p>〔ファシリテーター〕 関西大学 河内 真希</p> <p>〔書記〕 関西大学 反田 愛</p> <p>【第6班】5人 奈良県立奈良朱雀高等学 3年 男子 大阪府立東百舌鳥高等学校 3年 女子 奈良県立香芝高等学校 3年 男子 奈良県立大和広陵高等学校 3年 男子 奈良県立奈良朱雀高等学 2年 男子</p> <p>〔ファシリテーター〕 関西情報コンピューター専門学校 日下部 拓人</p> <p>〔書記〕 帝塚山学院大学 大宅 穂香</p>
--	--

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局、受付、庶務
奈良県立香芝高等学校	会場、会場設営、司会、
奈良県立奈良朱雀高等学校 奈良県立大和広陵高等学校 奈良県立王寺工業高等学校 奈良県立奈良情報商業高等学校	会場設営、受付、庶務
帝塚山大学	会場提供、会場設営、挨拶 他
高校生 ICT Conference OB,OG	ファシリテーター、書記
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	庶務
各地協力団体、事業者、大学等	挨拶、講演、資料提供 他

(敬称略)

13. 高校生 ICT Conference 2016 in 高知 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 41 名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 高知県立須崎高等学校 大原 信男 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 内閣府 政策統括官（共生社会政策担当）付 参事官（青少年環境整備担当） 村田 達哉 様 高校生 ICT Conference の意義及び内閣府の役割についてもあわせて紹介いただきました。</p> <p>四国総合通信局 情報通信部長 松田 和男 様 インターネットは、その利用により、買い物が便利になったり、個人でビジネスをするチャンスが広がったりと、生活する上で不可欠なサービスになってきている一方で、使いすぎによる中毒問題や出会い系サイトの問題などのトラブルも絶えない状況にあること。インターネットの利用に当たっては、まずは正確な知識を普及させることが必要で、総務省で実施している e-ネットキャラバンをはじめ、安心・安全な青少年インターネット利用環境の整備の取り組み及び本カンファレンスに期待する点について、お話をいただきました。</p> <p>第四部 事業者による講演</p> <p>「ネットトラブル ～Ameba での事例～」 株式会社サイバーエージェント メディアサポート室 中村 広毅 様 Ameba で実際に発生した事例をもとに、ネットトラブル発生の詳細、また Ameba での対処方法の説明、実際に Web を見ながら講演を行っていただきました。</p> <p>各プレゼンの内容をしっかり参加生徒はメモをとりながら次の熟議に備えていました。各プレゼンの内容も 現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案など いろいろなアイデアが盛り込まれていて教員にも大変有意義なものでした。</p> <p>アイスブレイク、 自己紹介 5 つのグループに分かれ、アイスブレイクの後、各グループ内で自己紹介などを実</p>
----	--

	<p>施しました。</p> <p>第二部：熟議「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」</p> <p>グループに分かれ参加校の引率先生がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。</p> <p>第三部：グループ発表</p> <p>各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）</p> <p>その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、高知県立須崎高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>最後に、高知県立安芸桜ヶ丘高等学校 金子 宏 先生より閉会のご挨拶をいただきました。</p>
参加校：	<p>高知県立須崎高等学校</p> <p>高知県立伊野商業高等学校</p> <p>高知県立安芸桜ヶ丘高等学校</p> <p>高知県立岡豊高等学校（順不同）</p>
日時：	2016年8月23日（火） 9:30-16:30
場所：	ちより街テラス（高知県高知市知寄町2丁目1-37）
参加人数：	<p>熟議参加生徒 31人</p> <p>見学者・関係者 10人（教員・教育関係者・その他）</p> <p>合計：41人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【グループ名：ウツボ】6名</p> <p>伊野商業高等学校2年女子、伊野商業高等学校2年女子、安芸桜ヶ丘高等学校2年女子、須崎高等学校3年男子、安芸桜ヶ丘高等学校2年女子、岡豊高等学校3年女子</p> <p>〔ファシリテーター〕</p> <p>高知県立岡豊高等学校 見元 菜緒美</p> <p>【グループ名：清水さば】 7名</p> <p>岡豊高等学校3年女子、岡豊高等学校3年女子、須崎高等学校3年女子、伊野商業高等学校2年男子、伊野商業高等学校2年女子、安芸桜ヶ丘高等学校1年</p>

<p>女子、安芸桜ヶ丘高等学校 1 年女子 〔ファシリテーター〕 高知県立伊野商業高等学校 中村 佳子</p> <p>【グループ名：カツオ】 6 名 岡豊高等学校 3 年男子、岡豊高等学校 3 年男子、伊野商業高等学校 2 年男子、 伊野商業高等学校 2 年女子、安芸桜ヶ丘高等学校 2 年女子、須崎高等学校 2 年女子 〔ファシリテーター〕 高知県立伊野商業高等学校 菊田 幸希</p> <p>【グループ名：くじら】 6 名 伊野商業高等学校 2 年女子、伊野商業高等学校 2 年女子、岡豊高等学校 3 年男子、 安芸桜ヶ丘高等学校 2 年女子、安芸桜ヶ丘高等学校 2 年女子、須崎高等学校 3 年女子 〔ファシリテーター〕 高知県立須崎高等学校 大原 信男</p> <p>【グループ名：キンメダイ】 6 名 伊野商業高等学校 2 年女子、岡豊高等学校 3 年女子、須崎高等学校 3 年男子、 安芸桜ヶ丘高等学校 2 年女子、伊野商業高等学校 2 年男子、岡豊高等学校 3 年女子 〔ファシリテーター〕 高知県立安芸桜ヶ丘高等学校 金子 宏</p>

主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
高知県立須崎高等学校 高知県立伊野商業高等学校 高知県立安芸桜ヶ丘高等学校 高知県立岡豊高等学校	会場調整、什器備品手配 飲食手配、庶務
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

(敬称略)

14. 高校生 ICT Conference 2016 in 福岡 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 89 名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 高校生 ICT Conference 実行委員会 吉岡 良平 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを簡単に説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 総務省 九州総合通信局 情報通信部 電気通信事業課長 氏家 宏之 様 総務省が毎年実施している通信利用動向調査結果についてとインターネットを「正しく使いこなす能力 (リテラシー)」を伸ばして、「自分の判断や責任で、インターネット社会の荒波を乗り切る能力」を育てる・習得することの重要性及び本カンファレンスに期待する点について、お話をいただきました。</p> <p>第五部 事業者による講演 LINE 株式会社 政策企画室 高橋 誠 様 「友だちとの言葉のやりとりで、トラブルにならないようにするために」という題名で講演してくださいました。 ネットトラブルの予防と対策の一例として"悪口"について考える内容で、「自分にとって嬉しい言葉でも悪口になる」「悪口とは、自分が言われて嫌な言葉ではなく"相手が嫌だと思ふ言葉"である」と話していただきました。</p> <p>一般社団法人情報教育研究所 代表理事 永坂 武城 様 「視点を変えて発想を膨らませろ!」をテーマに講演してくださいました。 熟議をする直前の高校生に、絵本を取り入れ『自分の立ち位置』に気づきを与えられました。また「概念」に意識を向けさせて、問題点の概念を大きくすることで発想を膨らませ、概念を小さくすることで具体性を考えさせる。そして「人は関連性に理解を示す」との前提に、議論する時には、相手と自分の知識に差異がある場合、伝わらないこともあるので「相手の体験等と関連づけて説明すると伝わりやすい」と熟議を行うコツについてもアドバイスをいただきました。</p> <p>参加校 学校紹介 および グループ分け 参加学校ごとに、簡単に学校紹介と自己紹介をしていただきました。 自己紹介の後、7 つのグループに分かれ、各グループ内で自己紹介などを実施しました。</p>
----	--

	<p>第二部：熟議「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」</p> <p>グループに分かれ福岡県立大学の学生、書記は子どもねっと会議所の方が担当し、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。</p> <p>また企業の方もサポーターとして入っていただきました。専門的な質問が出るとすばやく答えてくださいました。ファシリテーターは事前にフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。（詳細は別紙「熟議録」をご参照ください）</p> <p>第三部：グループ発表</p> <p>各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）</p> <p>その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、福岡県立福岡中央高校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>全体講評 子どもねっと会議所 代表 井島 信枝 様</p> <p>以下コメントをいただきました。</p> <p>多くの大人が「青少年がネットを使うとろくなことが起きない」と危惧するが、今日の発表の内容はもとより、瞬時にLINEで台本を共有し、スマホをカンペにしながらかプレゼンをやりのけてしまう高校生の感性の良さは、デジタルネイティブ世代ならではのであり、否定されるべきものではないと強く感じた。</p> <p>トラブル時に対応できるスキルを磨くだけでなく、ネットの可能性をうまく活用し成長していくロールモデルを大人に示してくれることを期待する。</p>
参加校：	<p>福岡県立遠賀高校 那珂川町立福岡女子商業高等学校 福岡県立福岡中央高校 福岡県立春日高校 学校法人博多学園 博多高等学校 学校法人沖学園 沖学園高等学校 福岡県立福岡高等学校 福岡県立博多青松高等学校 学校法人コングレガシオン・ド・ノートルダム 明治学園高等学校 福岡県立福岡講倫館高等学校 福岡県立香椎高等学校 福岡大学附属若葉高等学校（順不同）</p>
日 時：	2016年8月18日（木） 12:30-17:00
場 所：	<p>アクロス福岡7階 大会議室 福岡県福岡市中央区天神1-1-1</p>

参加人数：	<p>熟議参加生徒 43 人 見学者・関係者 46 人（教員・教育関係者・その他） 合計：89 人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【グループ 1】 6 名 博多青松高校 2 年男子、福岡高校 2 年女子、遠賀高校 2 年男子、明治学園高校 2 年女子、福岡中央高校 2 年女子、沖学園高校 2 年男子 〔ファシリテーター〕 福岡県立大学 藤井 春奈 〔書記〕 子どもねっと会議所 橋本 晴子</p> <p>【グループ 2】 6 名 講倫館高校 2 年女子、香椎高校 2 年男子、福岡中央高校 2 年男子、福岡青松高校 1 年女子、博多高校 2 年女子、福岡女子商業高校 3 年女子 〔ファシリテーター〕 福岡県立大学 重田 明里 〔書記〕 子どもねっと会議所 雪下 麻子</p> <p>【グループ 3】 6 名 香椎高等高校 2 年女子、講倫館高校 2 年男子、春日高等高校 2 年男子、遠賀高校 2 年男子、明治学園高校 2 年女子、沖学園高校 2 年女子 〔ファシリテーター〕 福岡県立大学 高辻 美優 〔書記〕 子どもねっと会議所 二宮 佳代子</p> <p>【グループ 4】 6 名 博多青松高校 3 年女子、立香椎高校 1 年女子、博多高校 2 年男子、修猷館高校 1 年女子、福岡高校 2 年男子、福岡中央高校 2 年女子 〔ファシリテーター〕 福岡県立大学 上野 瑞季 〔書記〕 子どもねっと会議所 原 加代子</p> <p>【グループ 5】 6 名 福岡女子商業高校 3 年女子、春日高校 2 年男子、福岡高校 2 年女子、遠賀高校 2 年男子、博多高校 2 年女子 講倫館高校 2 年女性</p>

	<p>〔ファシリテーター〕 福岡県立大学 奥田 弥々加</p> <p>〔書記〕 子どもねっと会議所 廣瀬 順子</p> <p>【グループ6】 6名 博多高等学校2年女子、講輪館高校2年女子、香椎高校1年男子、福岡中央高校2年女子、福岡女子商業高校3年女子、若葉高校2年女子</p> <p>〔ファシリテーター〕 福岡県立大学 森下 佳祐</p> <p>〔書記〕 子どもねっと会議所 森富 弘子</p> <p>【グループ7】 7名 博多青松高校1年女子、明治学園高校2年男子、春日高校2年男子、香椎高校2年男子、福岡中央高校2年女子、福大付属若葉高校2年女子、沖学園高校3年女子</p> <p>〔ファシリテーター〕 福岡県立大学 花田 知加子</p> <p>〔書記〕 子どもねっと会議所 西藤 知子</p>
--	---

主担当

福岡県 新社会推進部青少年課	三島、白水 他	全体調整、ファシリテーター・書記手配、庶務、受付
安心ネットづくり促進協議会	源	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡	司会
子どもねっと会議所	井島 他	記録
福岡県立大学	大学生	ファシリテーター
各地力団体、事業者、大学等		講演、ノベルティ、資料提供 他

(敬称略)

15. 高校生 ICT Conference 2016 in 大分 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 121 名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】</p> <p>司会進行・主旨説明 ハイパーネットワーク社会研究所 原田 美織 様</p> <p>高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを簡単に説明いただきました。</p> <p>開会の挨拶 ハイパーネットワーク社会研究所 副所長 渡辺律子 様</p> <p>以下のについてお話しいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none">・この高校生 ICT カンファレンスでは、自分と考え方や価値観が違う人と混ざって議論をし、まとめ、新しいことを提案していくこと。・今後、変化の激しい情報社会を生き抜くためには、そうした力が求められるので、とてもよい機会であること。・また、今日のカンファレンスの取り組みの様子から、大分県の代表校を選び、代表者が東京で全国の代表者と集まって議論をし、最終的に 2 名が国の省庁に行って発表します。また、大分ならではの賞として、高校生が選ぶグループ賞を設けたこと。・この 1 日を有意義にするために、ぜひ個人が何か目標を持って取り組んでいただきたいこと。 <p>ご来賓挨拶 総務省 九州総合通信局 電気通信事業課長 氏家宏之 様</p> <p>以下のについてお話しいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none">・大分県では、保護者向けの情報モラル教育が盛んであること。・大分県内殆どの学校で「ネットトラブル・情報モラル出前授業」が開催されていて、一昨年は「ネットトラブルに対応するための指導や講習会ができる、人材育成の講座」も、生徒を含めたかたちで開催されたこと。・大分県は「ネットモラル教育の先進地」であると言えること。・総務省では「e-ネット安心講座」という講座を毎年九州管内だけで 150 校を超える小中学校、高校で開催しているが、現在は高校生 ICT カンファレンスのように、生徒自らが考えて実行するような取組が注目されていること。・九州各地でも「生徒自らが作るネット利用のルール」として行っている活動や、「高校生が中学校を訪れて、後輩にネットトラブルの体験談やルールの必要性を話す」というような活動も行われていること。・大分県は、2013 年度からこの高校生 ICT カンファレンスに参加しており、とても意義があり、今年度も大きな成果が期待できると確信していること。
----	--

第六部 事業者による講演

ソフトバンク株式会社 渉外本部 約款・サービス部 佐治 健史 様

「フィルタリングについて考えよう！」というテーマで講演していただきました。

参加校 学校紹介 および グループ分け

参加学校ごとに、簡単に学校紹介と自己紹介をしていただきました。

自己紹介の後、8つのグループに分かれ、各グループ内で自己紹介などを実施しました。

第二部：熟議「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」

グループに分かれ、ファシリテーターは大学等の学生の方が担当し、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。

また企業の方もサポーターとして入っていただきました。専門的な質問が出るとすばやく答えてくださいました。ファシリテーターは事前にフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。（詳細は別紙「グループ熟議録」をご参照ください）

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）

その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、大分東明高校が代表校に選出され、発表されました。

全体講評 大分県私学振興青少年課 課長 徳野 満 様

以下コメントをいただきました。

「本カンファレンスは3つの点でこれからの時代を担う青少年にとって重要であると考えています。1つ目は県内各地から高校生が集まり一緒になって課題及び対策を考えるということ、2つ目はICTがテーマであるということ、そして3つ目は、カンファレンスつまり熟議という手法で行うということです。

皆さんの発表を拝見して、ポイントをしばったり、寸劇を使ったり工夫がなされていて大変素晴らしいと思います。寸劇では今日初めて出会ったと思えないほど息がピッタリと合っていました。

高校生の皆さんもこれから社会に出たら、人と人が出会って思いを共有して、考えをまとめる、それを自分の言葉で人に伝える、行動に移すことの大切さ、または難しさをこのカンファレンスで体験できたのではないのでしょうか。

ぜひ、この取り組みを学校、PTA、子ども会など県内各地域にも広めていただくようお願いします。」

参加校：	大分県立宇佐産業科学高等学校 大分高等学校 大分豊府高等学校 大分県立中津東高等学校 別府溝部学園高等学校 大分国際情報高等学校 大分県立由布高等学校 大分県立大分商業高等学校 大分県立大分鶴崎高等学校 大分工業高等学校 大分東明高等学校（順不同）
日 時：	2016年10月2日（日） 10:00-16:00
場 所：	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ
参加人数：	熟議参加生徒 47人 見学者・関係者 74人（教員・教育関係者・その他） 合計：121人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【グループ1】 6名 大分国際情報高等学校2年女子、大分東明高等学校3年女子、 大分高等学校2年女子、大分豊府高等学校1年男子、大分県立中津東高等学校1年女子、別府溝部学園高等学校1年女子 [ファシリテーター] 日本文理大学 長瀬 翔斗 [書記] I V Y総合技術工学院 藤田 瑞樹 【グループ2】 6名 大分豊府高等学校2年女子、大分東明高等学校3年女子、別府溝部学園高等学校1年男子、大分高等学校2年女子、大分県立由布高等学校3年男子、大分県立中津東高等学校1年女子 [ファシリテーター] I V Y総合技術工学院 森崎 良太 [書記] I V Y総合技術工学院 河野 正宗 【グループ3】 6名 大分県立中津東高等学校2年女子、大分東明高等学校3年男子、 別府溝部学園高等学校1年男子、大分県立由布高等学校3年男子、 大分豊府高等学校2年女子、大分県立宇佐産業科学高等学校3年女子 [ファシリテーター]

大分大学大学院 首藤 麻衣

〔書記〕

I V Y総合技術工学院 上野 紘輝

【グループ4】 6名

大分工業高等学校3年女子、大分東明高等学校3年男子、大分県立由布高等学校3年男子、大分国際情報高等学校1年女子、別府溝部学園高等学校3年女子、大分豊府高等学校2年女子

〔ファシリテーター〕

日本文理大学 竹下 歌

〔書記〕

I V Y総合技術工学院 松尾 将吾

【グループ5】 6名

大分東明高等学校3年男子、大分県立中津東高等学校1年女子、大分工業高等学校2年男子、大分県立大分商業高等学校1年女子、大分高等学校2年女子、大分国際情報高等学校1年女子

〔ファシリテーター〕

I V Y総合技術工学院 若林 佑

〔書記〕

I V Y総合技術工学院 高倉 圭佑

【グループ6】 6名

大分県立大分商業高等学校1年女子、大分県立中津東高等学校2年女子、大分東明高等学校3年男子、大分国際情報高等学校2年女子、大分国際情報高等学校1年女子、大分工業高等学校2年男子

〔ファシリテーター〕

I V Y総合技術工学院 赤嶺 翔平

〔書記〕

I V Y総合技術工学院 河村 直哉

【グループ7】 6名

大分東明高等学校3年男子、大分豊府高等学校2年女子、大分県立大分鶴崎高等学校2年男子、大分県立由布高等学校3年女子、大分県立中津東高等学校2年女子、別府溝部学園高等学校1年女子

〔ファシリテーター〕

I V Y総合技術工学院 福井 翔太

〔書記〕

I V Y総合技術工学院 松田 直樹

【グループ8】 5名

	大分県立中津東高等学校 1 年女子、大分東明高等学校 3 年女子、 大分県立大分鶴崎高等学校 2 年男子、別府溝部学園高等学校 1 年女子、 大分豊府高等学校 1 年女子 [ファシリテーター] I V Y 総合技術工学院 外山 鴻貴 [書記] I V Y 総合技術工学院 釘宮 友一
--	---

主担当

ハイパーネットワーク社会研究所	渡辺、原田、芳崎	全体調整、事務局、庶務、
安心ネットづくり促進協議会	源	事務局、庶務
ハイパーネットワーク社会研究所	原田	司会
大学等	学生	ファシリテーター
ハイパーネットワーク社会研究所		書記
各地力団体、事業者、大学等		講演、ノベルティ、資料提供 他

(敬称略)

16. 高校生 ICT Conference 2016 サミット 開催概要

概要	<p>高校生、教員、行政、企業関係者など 110 名の参加者を得て、『ネットトラブル！ どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～』をテーマに、高校生 ICT Conference2016 各開催地域の代表者と沖縄、福井からの招待参加を含めて合計 16 名の高校生が、各開催地の結果を持ち寄り、2 つのグループに分かれて活発な議論と発表を行ないました。</p> <p>【司会進行・主旨説明】 羽衣学園高等学校 米田 謙三 先生</p> <p>本日の全体進行役の羽衣学園高等学校 米田 謙三 先生より高校生 ICT Conference の主旨説明と本日の大まかな流れについて説明していただきました。</p> <p>【開会の挨拶】 文部科学省 生涯学習政策局 青少年教育課 課長 土肥 克己 様</p> <p>文部科学省の役割についてのご説明があり、その中で青少年教育課が何を担っているのかといった話からコミュニケーション力の重要性に触れられ、このように全国から集まって議論して発表することは非常に良い体験であり、楽しんで参加してほしいこと、また、それを持ち帰って伝えてほしいこと、そして、最終報告会への期待のお言葉をいただきました。</p> <p>経済産業省 情報経済課 課長補佐 岡北 有平 様</p> <p>目覚ましく変化しているスマホ・インターネット環境の中で、ルールを守ることだけではなく、ルールを変えていく力や殻を破る力といったものを身につけてほしいこと、そのためには本日の高校生 ICT Conference のような場は非常に良い機会であり、最終報告会での提案にも非常に期待しているとお言葉をいただきました。</p> <p>【各開催地域代表生徒の自己紹介、地域の取り組みの紹介】</p> <p>アイスブレイクとして各地域代表者が持参したお土産の紹介と、自己紹介も兼ねた各地域の熟議の報告や招待参加校の取組みの紹介を以下の順番に行ないました。お土産の選定もよく考えられていて、それぞれ個性豊かに特徴が出ており、また、代表者は 3 分間の中で上手にまとめて発表をしていました。</p> <ol style="list-style-type: none">① 北海道札幌東豊高等学校 3 年 男子② 北海道釧路明輝高等学校 1 年 男子③ 東北学院中学校・高等学校 2 年 男子④ 石川県立金沢二水高等学校 2 年 女子⑤ 長野県長野商業高等学校 3 年 男子⑥ 新潟県敬和学園高等学校 2 年 女子⑦ 福井県立福井商業高等学校 3 年 女子（招待参加）⑧ 水城高等学校 2 年 女子
----	--

休憩

- ⑨ 神奈川県立光陵高等学校 3年 男子
- ⑩ 静岡市立清水桜が丘高等学校 2年 男子
- ⑪ 大阪府立東百舌鳥高等学校 3年 女子
- ⑫ 奈良県立王寺工業高等学校 1年 男子
- ⑬ 高知県立須崎高等学校 3年 女子
- ⑭ 福岡県立福岡中央高等学校 2年 女子
- ⑮ 大分東明高等学校 3年 女子
- ⑯ 沖縄県立沖縄工業高等学校 3年 男子（招待参加）

高校生たちも最初は緊張していた様子でしたが、発表が進むにつれ和やかになってきました。

休憩

【挨拶】

内閣府 政策統括官（共生社会政策担当）付 参事官（総合調整第一・青少年環境整備担当）

村田 達哉 様

まず、内閣府の役割についてのご説明があり、各地域代表者の自己紹介も兼ねた素晴らしい発表があったこと、ただ、それで本当に十分なのか、本日の高校生 ICT Conference サミットにおいて議論を深めて、より実りあるものになることを期待しているとお言葉をいただきました。

【グループ熟議・発表資料作成】

進行役の米田先生から本日のファシリテーターと書記の紹介があり、イントロダクションとして今年度のテーマを振り返ってポイントを挙げていただき、熟議発表までのスケジュールの説明がありました。今回のグループ熟議は2つのグループに分かれて、それぞれ8名のグループで進められました。それぞれのグループで熟議の進め方やペースは違っていました。付箋を利用して模造紙に貼り付け、項目に分類しながら、役割分担もして工夫しながらまとめていきました。高校生から会場で参観している皆さんに直接口頭でアンケートを行なうような積極的な場面もあり、それぞれのグループで熱く議論が交わされました。

「グループ熟議」の詳細は別紙「高校生 ICT Conference2016 サミット熟議録」をご覧ください。

【グループ発表】

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して5分程度の発表を行いました。各グループの発表タイトルと発表概要は以下の通りです。詳細については別紙

「高校生 ICT Conference2016 サミット発表資料」をご覧ください。

グループ A :

『アナログとデジタル』

- ・ ネットトラブルの事例と原因
- ・ 予防
- ・ 事後対策
 - ⇒ 発信方法として
 - ・ 学生向けの議会を開く（政府）
 - ・ 会社で講習する、紙のメディアで発信（大人）
親子で話し合う
 - ・ 近い世代の話を聞く、授業とテスト（子どもたち、同世代）
- ・ まとめ
 - ・ すべての世代・政府が協力して、関心を高める
 - ・ デジタルとアナログ両面での発信を行う

グループ B :

『大人だけが先生じゃない！！』

- ・ 肖像権についての予防と対策
- ・ 悪口・ケンカについての予防と対策
- ・ 高校生が物申す！！
 - ① 俺らに出前授業をさせてくれ！
 - ② ICT Conference のようなイベントを増やすべし！
- ・ 提言
高校生が中心となって、小中学生に伝える

【講評】

総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部消費者行政第一課 課長 徳光 歩 様

まず、本日初対面の高校生が、限られた時間の中で議論してプレゼン資料にまとめて発表する能力の高さに感心し、非常に頼もしく思ったというお褒めの言葉をいただきました。各グループに対する講評概要は以下の通りです。

グループ A : 予防としてフィルタリングをかけるとの話もあったが、政府全体としてもこれを普及させていくことは重要な取組み。また、事後対策として大人に相談するということが印象に残った。すべての世代・政府が協力して、関心を高めるということについては、まさに高校生 ICT Conference がその取組みであると思う。学生向けの議会というのにも印象に残った。

グループ B : 第三者（大人）に相談したくてもできないということが印象に残った。そういう中で大人ではなく高校生が先生になってということを経験した高校生自らそうした声が出るのは頼もしく思った。ICT Conference のような

	<p>イベントを増やしてほしいというのは我々も同じであり、参加した皆さんがこうした取組みであった、ということ伝えて広げてほしい。</p> <p>インターネットは新しい問題がどんどん出てくるかと思う。こうした予防や対策を考えることは終わることではなく重要なことであり、今後も考え続けてほしいという貴重なお話をいただきました。</p> <p>【集合写真撮影】</p> <p>最後に参加した高校生全員で集合写真を撮影しました。</p> <p>今回の参加者の中から、12月14日に開催予定の最終報告会（内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁）に参加する代表者2名を選出しました。代表校は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北学院中学校・高等学校 2年 男子 ・大阪府立東百舌鳥高等学校 3年 女子
参加校：	<p>札幌 北海道札幌東豊高等学校 帯広 北海道釧路明輝高等学校 宮城 東北学院中学校・高等学校 石川 石川県立金沢二水高等学校 長野 長野県長野商業高等学校 新潟 敬和学園高等学校 東京 水城高等学校 神奈川 神奈川県立光陵高等学校 静岡 静岡市立清水桜が丘高等学校 大阪 大阪府立東百舌鳥高等学校 奈良 奈良県立王寺工業高等学校 高知 高知県立須崎高等学校 福岡 福岡県立福岡中央高等学校 大分 大分東明高等学校 福井 福井県立福井商業高等学校 沖縄 沖縄県立沖縄工業高等学校</p>
日 時：	2016年11月3日（木・祝） 13:00-17:00
場 所：	<p>東京 ユビキタス創造広場 CANVAS（内田洋行） 東京都中央区新川 2-4-7</p>
参加人数：	<p>熟議参加生徒 16人 見学者・関係者 94人（教員・教育関係者・その他） 合計：110人</p>

主担当

羽衣学園	米田	司会進行
安心ネットづくり促進協議会	白戸 源、高橋	事務局、庶務
一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構	清水、野沢 他	庶務
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡、工藤	庶務
協力団体、事業者等		挨拶、ファシリテーター、書記、講評 他
内田洋行	佐藤、真鍋	会場設営、機材準備 他

(敬称略)

17. 高校生 ICT Conference 2016 最終報告会

概要

日 時：	2016年12月14日（水）10:30-16:00
10:30-12:00 13:30-14:30 15:00-16:00	内閣府（合同会）にて高校生プレゼン、関係府省庁との意見交換 総務省にて高校生プレゼン、意見交換 文部科学省にて高校生プレゼン、意見交換
場 所：	〔内閣府 中央合同庁舎 第8号館〕 〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1 〔総務省 総合通信基盤局 中央合同庁舎 第2号館〕 〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2 〔文部科学省 生涯学習政策局〕 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2
テーマ	ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】 ～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～
出席者：	〔最終報告者〕2名 【大阪府】大阪府立東百舌鳥高等学校 3年 女子 【宮城県】東北学院中学校・高等学校 2年 男子 〔引率〕2名 【大阪府】大阪府立東百舌鳥高等学校 勝田教諭 【宮城県】東北学院中学校・高等学校 名越教諭 〔随行〕16名 安心ネットづくり促進協議会 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 他、関係事業者・団体 【内閣府】（合同会） 内閣府 政策統括官（共生社会政策担当）付青少年環境整備担当 総務省 総合通信基盤局消費者行政第一課 文部科学省 生涯学習政策局青少年教育課 経済産業省 商務情報政策局情報経済課 消費者庁 消費者政策課 警察庁 生活安全局情報技術犯罪対策課 警察庁 生活安全局少年課 法務省 大臣官房秘書課政策評価企画室 青少年インターネット環境の整備等に関する検討会委員 計20名 【総務省】

総務大臣政務官

総合通信基盤局長

同 電気通信事業部 消費者行政第一課

情報通信国際戦略局 情報通信経済室

同 国際協力課

情報流通行政局 情報流通高度化推進室

関東総合通信局 電気通信事業課

計 15 名

【文部科学省】

生涯学習政策局 局長

大臣官房審議官（生涯学習政策局担当）

生涯学習政策局 青少年教育課

生涯学習政策局 情報教育課

計 8 名

高校生 ICT Conference 2016 最終報告会 発表内容

全国 14 ヶ所でワークショップ形式の議論を実施し、札幌、帯広、宮城、石川、長野、新潟、東京、神奈川、静岡、大阪、奈良、高知、福岡、大分からそれぞれ代表者 1 名を選出。福井・沖縄からの招待参加を含め、合計 16 名による高校生 ICT Conference2016 サミットを経て、最終報告会にサミット参加の高校生から代表者 2 名が、内閣府、総務省、文部科学省において、高校生 ICT Conference2016 で得られた成果を提言として発表しました。

最終報告の内容は主に以下の通り。

【高校生による提言】

『ネットトラブル! どうする? 【予防】 と 【対策】 ～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～』最終報告

1. ネットトラブルの事例

- ・詐欺
- ・ウイルス
- ・出会い系サイト
- ・通信販売
- ・ネットストーカー（粘着、つきまとい）
- ・乗っ取り
- ・個人情報流出 等

2. これらに対する予防

- ・知識をつける …ネットマナーなど
- ・教育を行う
- ・運営との協力 …SNS 等の運営会社に依頼しトラブルが発生しにくいように
- ・フィルタリングをかける …自分で行う、親と行う
- ・警察等の機関との連携 …トラブルが起きても大丈夫なように備える
- ・相談しやすい環境づくり …トラブルが起きる前に相談ができれば防げるのでは？

3. 対策

- ・警察・専門機関に行く
- ・体験を次につなげる
- ・個人的なルールをつくる・・・「自分ではやらないこと」を決めて割り切る
- ・大人に相談する

⇒キーワードは「相談」

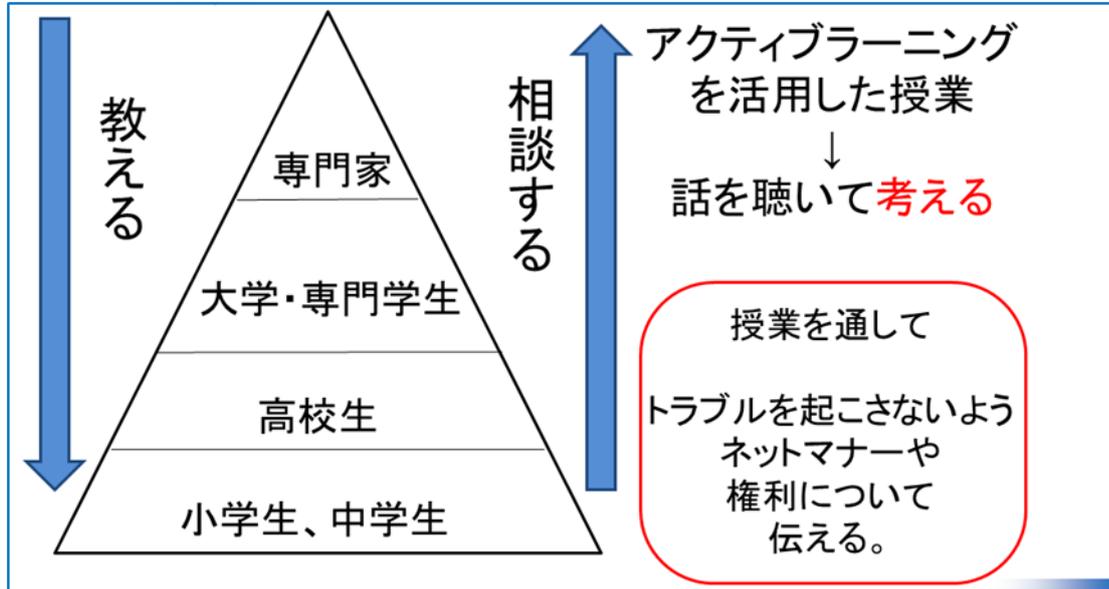
4. 提言① ～新たな予防として～

「相談する」ことが、案外できていない。トラブルを悪化させる原因ではないか。

解決策の一つとして出たのが「出前授業」。

身近な世代が先生として授業をするもの。高校生が小中学生の授業に入る。世代が近いので相談しやすい。

<出前授業の理想図>



一番トップに専門家の方に入ってもらい、大学・専門学生に教え、それを高校生が受け継ぎ、小学生、中学生に伝えていく。その過程で絆を作ることにより、相談しやすい環境が生まれる。

主にアクティブラーニングを活用し、話を聞くだけでなく、考え、自分の意見とすることを目指している。トラブルが起こらないよう、ネットマナーや権利についてきちんと伝える。このような場をぜひ設けていただきたい。

5. 提言② - 1 新たな対策として ～いじめ保険の導入～

提言②は自己救済型である。「いじめ保険」は、住居の移転や転校にかかる費用などを援助するもの。韓国やイギリスに実例がある。メリットは自殺者の低下で、デメリットはいじめを偽装して保険金を受け取ろうとする詐欺の危険性。

6. 提言② - 2 新たな対策として

～全員参加とはしない、必要な人が相談しやすい環境&解決出来る環境～

(1) 些細な体験でも語り合える場

いじめられている人だけが参加する場で、些細なことでも被害者自身から体験を聞くことができ、自分自身への戒めや解決のヒントにする。法律に明るい方やネットアプリに関わる方を呼んでその場で解決できれば、安心感からまた人が来る。

(2) 被害事例の検索サイト

実際に被害に遭った人が感想や出来事をネットにアップし、これらを検索可能とすることで、警察や法律の専門家に頼らなくてもヒントを得られ、対処ができるようなサイトを提供する。

7. ICT Conference を通して学んだこと

(生徒) 先生に勧められ興味を持ち参加した。全く知らないことが多く、普段利用しているスマホの裏に様々な人がいるなど一気に知識を得た。また熟議においては、自分と異なる意見を聞いて新しい発見があった。サミットでは全国各地の代表者から地域の大会では出なかった考え方を聞くことができた。情報の先生に対して高校生の立場として授業をしていたり、寮にいるので携帯を一切使えない人もいるなど、同じ日本に住んでいるのにこんなに違うのかと思った。同時に、ネットの付き合い方がみなそれぞれ異なるので、様々な意見をもらって自分で考えることができ、世界が膨らんだ。参加してよかった。

(生徒) 自分自身はネットトラブルの被害には遭っていないが、サミットで実際の事例を聞き、こういうことがあったら確かに困る、そんなときはこういう対処をすればよいといったことを聞くことができて良かった。一番驚いたのは意見のぶつかり合いで、全国から集まってくる人はすごいと思った。発表する場は ICT Conference くらいしかなく、このように自由に参加できる場は楽しい。これからもこういう場があれば参加していきたい。こういう機会を与えていただき、ありがとうございました。

内閣府「高校生 ICT カンファレンス 2016 最終報告会」

〔最終報告に関する質疑・感想〕

(文科省) どうもありがとうございました。非常にわかりやすく簡潔でした。文科省は教育を司る省庁で、情報モラル、リテラシーは非常に大切と考えている。情報モラルとは日常のモラルがベースになったインターネット上で必要なもの。少しずつの積み上げが非常に大事で、そこをどうするかというのが引き続きの課題と考えている。提言にあったとおり大人に言われると守りづらいが近い世代の問題は自分のこととして感じやすい、そういうしくみは我々も整理すべきと考えている。いじめ保険についてネットに掲載されている情報は見たが、もう少し詳しく教えてほしい。

(参観生徒) アトピーや皮膚炎など、容姿に関してのいじめがあった時の保険というのをネットで見た。韓国では美容や整形などに関していじめが行われていて、深刻な問題として色々な会社が保険を取り入れているということだった。

(内閣府) この制度が成り立つには、まずお金を払ってくれる人がいなければならないが、この保険では、誰がお金を払うのか。

(生徒) それは我々になる。例えばいじめに遭うと思う人達が心配して保険に入るとすると、一人二人 だったら莫大なお金が必要だが、全員加入とはいかなくても大多数の人が数千円でも加入すれば集まる。引越しや転校等にかかる費用を補填するので、大規模なお金は考えていない。なぜいじめ保険を考えたかと言うと、いじめを受けることでお金がもらえるから嬉しいということではなく、いじめの対策として、死にたくなったら引っ越せばいいと思ったから。その時にいじめ保険がいいなと思った。数十万程度ならば千円払う人が百人集まれば一人を賄え、現実味があると思い提言した。

(内閣府) 非常によく考えられており素晴らしいと思う。一言コメントするとすれば、利益を受ける人(保護者、自分自身)がお金を払うという発想と、もう一つは、そうしたものは行政が税金でやるべき だという発想があると思う。大人は後者のように考えがちなのに、自分たちでやろうというのは素晴らしい考え方だと思う。役所でも考えていかなければならない課題だと思った。

(経産省) 発表ありがとうございました。大変興味深く聞かせていただいた。まず出前授業、これは本当に素晴らしいアイデアだと思う。どういう時に自分がレベルアップするかを考えると、人に教えたときだと思う。自分が誰かに教えるという体験を通じて自分の頭で考えて能力を高めることができると思うので、身近な世代の人たちに自分が講師になって教えるというのは非常に実のある提案だと思う。

もう一ついじめ保険について、デメリットとして詐欺の危険性について言及してくれたが、ぜひこうしたデメリットを無くすためには、いじめ保険をどうブラッシュアップしていくか、次のステップとして議論を深めていただきたいと思う。私が考えたのは、お金を援助するのではなく、役務、サービスを提供するという。転校、引越しをしなければいけないとなったときに、引越し費用を払うというよりも、引っ越しというサービス自体を提供する、病院に行かなければいけなくなったら病院で先生に面談するというような、お金を払うわけではなくて料金の支払も含めて調整をしてあげる、そうすればお金が手元に来るわけではないのでお金を得るためにわざといじめられる、ということは無くなるのでは

ないかと思う。せっかくのいい機会なので、もっと議論を深めて行って欲しい。

(生徒) ありがとうございます、なぜお金に関して思い付いたかという、すぐに転校できるかできないかではなく、気軽に言うためにお金にからめて話をした。サービスの提供は思いつかなかったのも、その通りだと思った。

(総務省) 素晴らしい発表ありがとうございました。身近な人への相談や教える体制作り、また体験を検索サイトに載せたり、解決策で ICT 等を活用する話があり、そのとおりだなと感じた。身近な人の教え、実体験は響いてくると思う。若い世代の意見としてとても身に沁みた。総務省や関係省庁・事業者によってイーネットキャラバンという、各学校を回ってネットマナーの啓発、推進を行う講座があるが、その中でも活かしていければと思った。先日、その講師に認定される研修を受けてきたところ。今日いただいた意見を参考に、自分の体験を語る事ができればいいと思った。ありがとうございました。

(生徒) 講師になるための講座内容はこういったものですか。

(総務省) 年間何百件という講座を行うプロの講師の方が、カリキュラムや話す流れの説明、伝え方、流行のゲームの体験の勧めなどを学んだ。3、4時間ほど講習を受け、自分でサイトに登録すると、各学校に派遣されるシステム。講習を受ければ誰でもなることができる。

(消費者庁) 消費者庁では、消費者の方々の権利の保護やトラブルの防止といった観点から、様々な取り組みを進めている。

行政として必要な規制を設けるなどの取り組みや、企業の方々の取り組みももちろん重要だが、消費者教育という観点からは、消費者の方々にも当事者としてトラブルに遭わないための知識を身につけ、実践していただくことが非常に重要と考えている。

ここで提案いただいた出前事業については、インターネットを利用する当事者がトラブルに遭わないように知識を身につけるための具体的な提案として、現実味もあるし、効果もあると思った。

これまでの議論を通じて、各地域がインターネットでのトラブル防止に関して独自に実施している取り組みについて耳にする機会もあったと思うが、その中で特に印象に残っている事例があれば、教えて欲しい。

(生徒) 神奈川県からの参加者は情報系に明るい生徒だったが、高校生が IT などの専門家に授業をすることをやっているようだ。高校生のいまのネットの使い方を専門家に授業として教える講座があるということだった。先生は大人だけではないのだと思った。

(生徒) 我々の班は、地域の独自性までは熟議できなかった。

(消費者庁) どんなトラブルが一番問題だという意見が多かったか。

(生徒) 身近なトラブル。相手の中傷するような言葉も遊びのうちならまだいいが、ネットトラブルに発展して、最悪の場合は集団でいじめられるが警察に相談できるレベルではなくグレーな状態というのが一番危ないと思った。

(内閣府検討会構成員) 提言1で提示された<出前授業の理想図>のピラミッドは、つい最近内閣府の検討会で見たように思う。地域の専門家をこうやって育てようというものが、まさにこの形だったのではないか。こうしたことをすでに高校生が考えているということなのだによく分かった。いじめ保険についてだが、自分は子どもの電話相談を受けているが、いじめというものは解決できないと常々思っていた。本人が転校するか、卒業するかで終わるパターンが一番多い。弁護士が入って学校交渉することもあるが、それでは根本解決にならない。スポーツ安全保険という保険はあるのだから、それをひろげれば使えるのではないかと、とても参考になった。いじめについてそうだが、今度検討するときは、ネットの特性である「拡散する、消えない」ということも一緒に検討してもらいたい。とても勉強になった。

(警察庁) トラブルを体験するというのはとても大切なこと。非行防止教室では小・中・高校生の皆さんが体験していないことを紹介し、知識としてもってもらい、予防に活用してもらおうと思っている。しかし全てのクラス、学校に行けるわけではないので、皆さんが経験されたトラブルなどを自分だけの体験にせず、皆気を付けよう、と拡散していただいて、体験していない人に知ってもらうために広報マン的になっていただき、事案を一つでも多くの友達に紹介してもらえたら被害が減るのではないか。そういうことも頭に置いておいていただけたらと思う。

(生徒) 大変申し訳ないのだが、拡散はとても難しい。言える相手と言えない相手がいる。あまり話さない人に伝えると、「なんだこいつ、おかしいことを言っているな」となり、それがいじめに発展してしまう。そして、自分が実際に被害にあわないとわからない。

(警察庁) 「個人的なルールをつくる」というのがあったが、どんなルールだったら簡単に実行しやすいと思うか。

(生徒) LINE などでは既読を付けたらすぐに返事をしないと揉めるということがあるが、私は LINE やメールの返事は日を跨がずにその日のうちだったらいいことにしている。それを優先にしない。電話は緊急だからかけ直す。また、わからないサイトには飛ばさないなどを自分のルールにしている。先ほど拡散が難しいといったが、提言したように、自分の体験サイトを作成して、気をつけるべきメールや送信元を各自で投稿し、閲覧してほしいということで提言に入れさせていただいた。誰が作るということではないが、拡散というのは方法が難しいと思うので、サイトを作って子供の悩み事相談室と一緒に載せてもらうなどのほうが早いのではないかと思う。

(法務省) 法務省の人権擁護機関では、職員や人権擁護委員が、いじめや、ネットへの書き込み等に悩んでいる方々の相談を受けている。発表の中の資料に相談体制のモデル図が示されているが、例えば、小・中学生から、ネット上でいじめを受けた等の相談を高校生が受けた場合、高校生では対応できず、相談を受けた高校生が問題を抱え込んでしまうこともあるだろう。そのようなときは、法務省の人権擁護機関を始めとする国の機関に相談するという選択肢もあるので、そのようなことも提言に加えるとより良い相談体制のモデルになるのではないか。また、提言のモデルを実現するためには、多くの高校生に協力をしてもらう必要がある。次の課題として、どうすれば多くの高校生に協力をしてもらえるかを考えなければならない。特に発表者の2人には、高校生のリーダーとして、引き続き頑張ってもらいたい。

(内閣府検討会構成員) 新しい形で変わったなと思った。今回提言にあったポータル作成だが、他の地域において、大学生からポータルだと荒らしの書きこみをして場を混乱させて楽しむような残念な人、それに対応する人が混在してしまうので、実際に被害を受けた人の生の声は動画がいいのではないかという意見があった。双方がうまくコラボレーションすれば、とてもいいものができるのではないか。

また東京都に「こたえーる」という相談窓口があるが、事件数、事故数は減っていないにもかかわらず、ここに来る全国からの相談件数がどんどん減っているようだ。高校生の心情を聞きたいが、実際に相談窓口があっても相談したくないという傾向はあるか。

(生徒) 相談しない理由は2つあると思う。まず、電話しても通じなかった。終了時間が18時となっており、部活が終わってから電話できない。16時～21時などにしたほうがよいのではないか。次に弁護士に聞いたとしても、いろいろなケースがあり証拠も無いので、法律に照らし合わせるのが難しい。いじめめる側は証拠が残らず処罰されないギリギリのところであるから、そのグレーゾーンが難しい。だから相談に値するのか、相談しても解決するのか、モヤモヤがいっぱいある。客観的に見たら相談したほうが良いと思うだろうが、いじめられている側は頭が混乱しており、回りがみえず視野が狭くなっているから相談できないのではないか。語り掛けると応えてくると思うので、そうしたほうが良い。

(生徒) 私はたぶんトラブルにあっても相談しない。時間のこともあるが、24時間受付のものがあるとしても電話には至らない。電話するほどのことじゃないだろう、自分は大丈夫と思ってしまっている。誰かの手を借りるほどじゃないだろう、言ったところで解決しないし、話して気持ちが楽になるというのがわからない。

(内閣府検討会構成員) LINE やチャットで回りから遮断された環境で聞けるとしたらどうか。

(生徒) そうだとしても、実際にいじめに遭っているか遭っていないかが大きな差だと思う。画面越し、携帯越し、肉声であったとしても、顔が見えない状態で、ずっといじめの話をしている人は嫌になってくるのではないかと躊躇する。上手く話せなかったらと思うと相談しづらい。

(内閣府検討会構成員) 相談する側からすると敷居が高く感じてしまうということか。

(生徒) 中学3年生くらいになると、聞くのが仕事だろうと思ってしまったりする。うんうんと言っておけばこちらの傷が治まると思っているのだろうと思ってしまう。被害に遭っているときは自分に余裕が無いので、相談するという心情にならないのではないか。

(内閣府検討会構成員) 相談が減っているのは、そういう人たちが増えているのではないかというか。

(生徒) そうだと思う。考え方が変わって来ているということではないか。

(内閣府検討会構成員) ありがとうございます。大変参考になりました。

(講評) 大変短い時間で、もっと深めていきたい議論もあったが、大変実りある報告会だった。本当にありがとうございました。一年かけてまとめた提言がここで一つの終着点にたどり着いたということなるが、素晴らしい経験を活かし、ぜひこれで終わりとすることなく今後を活かしてほしいと思う。社会の事を決めることには責任が伴う。実行するのはより大変なこと。皆さんは友達と真剣に話し合っ て多くのことを学び、我々も学ぶことができた。誰かが、決めることや実行することをやらなければいけない。いきなり皆さん方が国でルール作りに関わることはできなくても、社会人になる前であっても、身近なところでまだできることがたくさんある。皆さんは青少年のネット利用について、ICTConferenceを通して多くのことを学んできたと思うが、そこには色々な人が関わっている。国も基本方針を決めるけれども、自分、家族、学校、地域、それぞれで解決できる問題があると思う。例えば、今回のピラミッドの提案についても、国も考えるけれども、皆さんも学校でできることがあると思う。自分で解決すること、国も考えるけれど自分で考えること、それが自分の力、家族の力、地域の力、国民の力ということになっていくのではないかな。

先日のサミットで挨拶した一人が「ルールを破る力」という発言をしたが、私はルールを破ることはお勧めしないが、ルールを単に守るというだけではなく、ルールを疑う、なぜ このルールができたのか？守らなくてはいけないのか？を考えるのは大切なこと。ルールをさかのぼって行くと その理由があるという考え方も学んだのではないかな。今回せつかく学んできたこの青少年のネットトラブルという問題を、さらに勉強してもっと詳しくなり、身近な人から巻き込んで、より多くの人がこの問題に関心を持って取り組んでもらうよう頑張ってもらいたい。大人になって、どこでどういう立場であっても、一緒に取り組んでもらえたら嬉しい。お互いに頑張りましょう。ありがとうございました。

総務省 意見交換

(総務省) ありがとうございます。具体的なお話をお聞きしたい。まず、相談しやすい環境を設けてほしいということだが、具体的な相談事例があれば教えてほしい。また相談するには(聞き手に)専門知識が必要であると思うが、学校の出前授業以外にも専門知識を持っている人がいたらいいというのは議論の中に出てきたか。私はいじめそのものを何とか撲滅したく、いじめ保険はいじめありきの議論から始まっているのだろうと思うが、これが今の学校の状況かとショックを受けた。韓国の例を知らなかったなので、詳細を聞かせてほしい。少しでも相談する機会を作ってくれたらという意見は今日しっかりと受け止めた。ありがとうございます。

(生徒) 韓国の保険については、参観の1年生が調べてくれた。サムスンが扱っており、こども保障に関する保険、凶悪犯罪見舞金などがもらえるようだ。ヒュンダイが出している保険は、暴力や死亡による身体補償である。続いて、具体的に何を相談したいかということは、様々なケースがあるのでなんともいえない。例えば先生に報告したことによってまたいじめになったりする。子供同士で解決策を探り合うような相談をしていきたいと思うが、自分もいじめられた経験が無いので具体的なことは言えない。見たことはあるが、その時は先生に報告したらいじめられたという話だったので、そういう点も解決したいと思う。

(生徒) 具体的な相談事例ということだが、個人情報流出などがある。SNSサイトなどで顔を出したくなかったのに写真をアップされて揉めたりした場合、どう対処したらいいのか、非常に難しい。円満に収めるためにはどう行動すればいいのか、相談できたらいい。またワンクリック詐欺などは、画面が表示された場合にどう対処したらいいのか分からない。親に相談したら怒られてしまう、という時に相談できる人がいればいい。まったく関係ない人ではなく、接点があるけれど怒ったりしない人のほうが相談しやすい。親は相談しにくい。怒られると思うと言いたくない。出前授業の先生は年代が近いから仲良くなれ、小さいトラブルも相談しやすくなるのではないかと。そう思って出前授業の案を出した。

(参観生徒) 先ほどのいじめ保険の例だが、炎上を火消しする企業の金額を元に、どれくらいかかるかという目算を挙げてみた。火消しは関連検索費用対策で4,900円から。誹謗中傷を消すのは5,000円程度でできるのではないかとする予測。2ちゃんねるスレッド・レス対策その他掲示板スレッド・レス対策で10,000円程度。画像、動画対策は15,000円から。よくSNS等で炎上してしまう場合15,000円程度から保険適用できれば、被害を最小限に抑えることができるのではないと思う。ブログ対策は2万円から、口コミサイト対策は30,000円から、その他サイトの書き込み対策は50,000円から。値段は張ってしまうが、炎上で自分の将来が無くなるよりもこうした保険に入って自分の人生を棒に振らないようにするほうがいいのではないと思う。

(総務省) 両親への相談は難しいということだが、親の役割という点は話の中で出たか。

(生徒) 基本的に、高校生になってくるとトラブルが起きたら親に相談するというケースはあまり無いようで、地域でもサミットでも親の話は出なかった。何かあったとき親にあまり相談しないという意見のほうが多かった。

(総務省) 最初に相談するということが、特に大人に相談するということが非常に大切だと思っている。親にはなかなか相談できないということだが、自分の子供が巻き込まれたら本当に真剣に考えてくれるのは親である。ネットトラブルが身近にあったら、皆さんは誰に相談して、解決するかたちはできていると感じているか、ないと感じているか。実態を教えてください。

(生徒) 実態として、個人的に何かトラブルあった時は友達に相談するかもしれない。基本的には自分で解決しようと頭が真っ先に動くと思う。誰かに相談するよりも自分が解決できそうだったらやってしまうが、実際にできなかったときに悪化してしまう。だから今回相談したほうが良いという流れになった。相談しても友達も大人も知らないことは知らないで、専門家できちんと対策を分かっている方に教えていただくのが良いのではないかと思う。

(生徒) 個人的にはネットトラブルにあったことがなく、サミットの A 班では、ネットトラブルの解決策についてあまり話せなかった。なぜかというあまりトラブルあった人がおらず、怪しいサイトに行かないなど最初から避けて通ることができている。もし今我々が誤って道を通ってしまった場合にどうするかということ提言した。(何かあった場合に) 親に相談、警察に相談など大きく膨らんでしまって、子供としてはこのままいったらどうすればいいんだろうと先が見えない不安があると思う。だからネットトラブルを自己解決しようという考えになる。たぶん出来ないだろう、できなかったら自分の中で落ち込んでこのまま過ぎてしまえばいいと心の中で思いつつ大変なことになってしまうかもしれない。かもしれないばかりなので、たぶん大人に相談できないと思う。

(総務省) 今回、保険の導入という話があったが、そもそもネットにおけるいじめとはどのようなものがあるのか。また社会の基本はやはり家庭だと思うので、家庭の中でどうして解決できないのかという思いもある。韓国の例かもしれないが、何かあったときに家族には話さないのに保険料負担は保護者ということに違和感は出なかったのか、もう少し聞かせてほしい。

(生徒) サミットの A 班において、「いじめで自殺したくなったらリセットすればいい」という意見が出た。人生のリセットの方法を考えたとき、転校してしまえばいい、しかしお金がかかるし手続きも面倒、それなら保険のほうが良いのではないかと思い、保険を提言した。最初からいじめというのは起きるものだと私は考えている。B 班は予防をすることを考えている。なぜいじめは必ず起きるかということ、人間は生理的に相手を嫌だと思ふ、それで戦争も起きるし、警察も必要だからこうして問題が起きていると私は考えている。だから保険によって、何かあったら大丈夫という備えが必要だと思ふ、保険を作るべきだと思ふ。

(生徒) A 班は対策のほうだったが、B 班は予防寄りだった。併せて予防と対策でちょうどつながる。出前授業だが、このかたちで相談しやすい環境を作って、いじめをできるだけなくす方向で動いた上で、それでも起こってしまった場合の保険だと思う。保険前提でいじめがあるのではなく、もし起こってしまった場合の対策を何か考える必要がある、そのためということだと思うので、最初から保険に頼っているわけではない。

いじめの内容は、基本的に SNS なら裏アカウントを作って一人の悪口を書き込んで、数人だけ見られるようにして、ネットだけで悪口を言っているようにする。リアルでは仲良くして、いいふりをする。仲が良くないにしろ、書き込みがスクリーンショットなどで本人に見られてしまうととても不快で、見

られたこともまた書き込む。LINE グループだったら、別のグループを作って元々あるグループから一人二人を除き、仲の良い高校生達だけのものを作る。除かれるだけではなく悪口を言われたり、そういうことからいじめに発展していったりする。いじめではない、これは悪口だと思っていることが、後々いじめに発展していつてしまうこともある。

(総務省) 保険の話で、韓国で導入されているということだが、親がそういう保険に入っていることを子供は知っているのだろうか。子どもが入っていることを知らないと、自分で思い悩んで親に相談できずに悪い方向に行ってしまうんじゃないかと思う。そういった保険があると誹謗中傷を受けてしまった場合に保険でリセットできるというふうになると思うが、そこで親子のコミュニケーションが無いと、結局子どもが悩んでしまうという状況は変わらないと思うのだが、韓国はどういう状況なのか。

(生徒) 申し訳ないのだがそういう資料はない。韓国・イギリス・フランスの例は、実際いじめを受けたと認定されてから保険が下りる。親子のコミュニケーションがないことは想定されていない。子供だけで対処するということになる、どう対処していいかということはまだ考えていない。

(総務省) 裏アカウントを使って悪口をいうことは、いじめに認定される例に当たるのか。

(生徒) それだけだったら当たらないのかもしれないが、過激になってくると誰か分からない状態で直接本人に、という可能性も出てくる。(グループから) 外されただけならいじめではないかもしれないが、外した後、他のグループでその子の悪口を大量に書かれるというケースが多い。そうなってくると、それはリアルでやってもいじめに相当し、ネットでやろうがいじめはいじめである。ネットだから、見えないからいいと言い出すと、今度は本当に区別を付けていかなければいけないかもしれないが、それはよくない。一緒のことだと思う。そうでないと余計に画面の向こうにいる相手を意識しなくなってしまう。意識しないがゆえに普段会った時は直接言わないようなことをネット越しで言ってしまったりする。それが問題ではないかと思う。

(生徒) 先ほどあったとおり、グレーだから非常に問題である。暴行した事実があれば警察が出る、わかるから対処しやすい。しかしいじめの場合、判断が難しい。私が一年生の時に、ある子がテストでカンニングをしてしまった。それであるあだ名がついた。それがいじめにあたるかあたらぬか。本人は非常に嫌がっていた。先生に相談し、その結果数人が謹慎処分を受けて終わったが、それがいじめかどうかは誰もわからない。ただ単に、ふざけて言っただけかもしれないし、ふざけていないのかもしれない。カンニングしたほうが悪いのではないかという意見もあった。人それぞれだと思う。非常に難しいところだと思うし、私が言った保険も本当にいじめを受けてから保険が適応されるのであって、言葉遊びでいじめられている場合はどういうふうに対応していけばいいか。子供同士の人間関係だと思うので、大人が介入していいのかどうか、私には言えない。

(引率教員) 生徒が、ネットとリアルのいじめの違いを調べたので発表させてほしい。

(参観生徒) 先ほど、インターネット上の悪口はいじめなのかと言う話があったが、平成 23 年に総務省が発表しているデータで、ネットいじめの被害経験と、学校でのいじめの被害経験についてアンケートを取ったものがあった。そこで、中学生を対象にしたアンケートだと、ネット上で同じ学校の人をから

かったとかそういう項目があるのでネット上の悪口も十分いじめと考えられると思う。ネットとリアルというのは非常に深い関係があり、ネット上で起きていることはすぐにリアルで起こることもたくさんある。ネットの悪口もいじめと考えていいと思う。

(参観者) ネット上のいじめの問題は皆さんがおっしゃるように微妙で、いじめられた受身側のほうがいじめられていると思ったとき、悪口を言っている側がいじめたつもりはないかどうかというのは別問題になると思う。だから、言っているほうはいじめたつもりではなく、ちょっとした悪ふざけのつもりだった、その場のノリで言ってしまったとしても、受身側のほうがいじめられているとなったら、いじめと同じようなかたちで対応してあげないといけない、心のケアの部分。そういうお話は各省庁の会議で出ている。ところが大人は、これはいじめなのか双方の意見をつき合わせ、黒か白かグレーか決めてから対処しようとする。多くの大人の悪い癖である。そのために、いじめられていると受け止めてしまった側が辛い思いをし続けている。ネットの場合、それが表に出て見えない部分だけに辛いことが沢山起きていて、いじめられている側が人に言ってもわかってくれないから言えない、言えないから余計心にストレスを溜めて、学校に行けなくなってしまう。来ないから何か言われる、という悪循環になってしまう。どこの学校にもスクールカウンセラーが少なくとも月に1回は来ていると思うので、いじめられていると思った側の訴えが一つでもあったら、大人がきちんと話を聞いてあげて対応できる、これがいじめの火種になるのだということを実大人全員が理解して、対処してあげられる、学校で皆で考えてみるといったいろんな対応があると思う。それができないと、このネットのいじめの問題というのは被害妄想的に何でもかんでもいじめられていると思ってしまって、問題児だとレッテルを貼られてしまうケースもないこともない。受け手側のケアをしていくことが一番、いじめから不登校や自殺などに結びついていけない根本になるのではないかな。また以前実際にあった話だが、子供同士のLINEの会話を親が盗み見てしまい、自分の子どもがいじめられていると勘違いした親が学校に乗り込んで、自分の子どもがいじめられていると伝え、学校が対応して生徒集会などに発展し、大騒ぎになってしまった。しかし本人たちは悪ふざけをしているだけで、受けている側もいじめられている意識はまったくなかった。そのせいで、良好だった子供たちの仲が悪くなってしまったという話がある。大人は、受け身側になっている子がいじめられていると思っているか、思っていないかを物差しにして動いてあげる必要がある。そのお母さんも、子どもに大丈夫なのかと一言聞くということがなく、自分で動いてしまったために問題が大きくなってしまった。注目すべきは、受けている側の子どもの心理状態。そこに着目して高校生は今の話をしてくれたのだらうと思って聞いていた。

(総務省) 今日はありがとうございます。普段聞かない斬新なアイデアあり大変面白かった。皆さんの経験に鑑みて、小中学生のときにこういう話をきいていたら役立ったとか、知っていたので役立った、小学生のときにこういう知識を得ておくのがいいと思うことはあるか。

(生徒) 私の世代は高校に入ってからスマートフォンを持つというケースが多かったのだが、今は中学生でも持っている子が年々増えている、というアンケート、統計も出ている。今の小・中学生に伝えたいと思ったのは、著作権、肖像権などの権利。案外みんな知らずに友達との写真をそのまま(ネットに)あげてしまう、そういう問題が少なくない。載せてしまったことを言える子と言えない子がいたりする。こういうことは、中学のうちに学ぶことができたらと思う。勝手に画像を載せては駄目で、載せるなら許可をとることなど、ネットのマナーとして知っておくべきだと思う。

(生徒) 中学生のときネットトラブルに遭ったことがないのであまりアドバイスできないのだが、父に聞いて役に立ったネットトラブルの解決法がある。ワンクリック詐欺のサイトに行ってしまった場合、タスクマネージャを起動して消せば、大体のものは消えるということをお・中学生に教えていただければと思う。

(総務省) いま学校やあらゆる機会でも知識をつける教育をしていると思うが、足りていないからこういう意見が出るのだと思う。どういったかたちで、相談する機会と、より知識をつける教育を受ける場を持ちたいと思うか。

(生徒) 教育という面では、ここにいる高校生は情報教育の機会に恵まれていると思う。こういう機会があつて自分で考えることが大事だと思う。人から話を聞いて教わるばかりであれば眠くなつたりして興味がある人しか話を聞かない。問題なのは興味がない人だと思う。興味がない人は勉強しないし話を聞いてくれない。そういう人に限つて問題を起す。だからこそ、どうしたら話を聞いて、考えてくれるのか。やはり年の離れた人に長々話されても、聞いてくれる人は少ない。面白い先生は(授業で)起きている子が多い。一人でしゃべっているだけで誰も当てないような先生は半数寝ていることもある。私は、小・中学生のころ、高校生に対する憧れがあつた。高校生は輝いて見えた。そういう人の話だつたら聞いてみようと思うのではないか。だから身近な世代がいい。年が離れすぎると、お互いに相手のことがわからない。つい最近まで中学生だつた私たちだから中学生のことも理解できるし、中学生もある程度理解してくれるのではないか。その環境で深めていったらいいんじゃないかというふうに思いました。

(生徒) 教育というかたちだと、眠くなつたり、つまらないと思つて話を聞かない。提言2-②で言いましたが、実際に体験したり話を聞いてみることで恐怖について考えることができる。考えることによつて学ぶ意識を持つべきだと思う。誰が誰に教えるというより、そういうことがあるから、物事を勉強しようと呼びかけるべきだと思う。呼びかけても聞かないと思うが、ある程度、少し恐怖を感じたら人間は動くと思うのでそれが出来る教育をすべきだと思う。

(講評) 今日は皆さんのお話を聞いて、いろいろ発見があつた。いかに皆さんがいじめをはじめとして、ネットトラブルで悩んでいるかよくわかつた。なんとかしてそれを和らげてあげたいと、大人の一人として本当に思つた。今日の提言は本当に素晴らしい。予防の提言だが、大人に相談しにくいところがあると。年の近い方々に上手くアクセスできるか、出前授業が一つのアイデアではないかということで、理想図のようにうまく回していけるといいと思う。それから保険の話、とてもいいアイデアだと思つた。ちゃんとどこか引き受け手になつてこういうメカニズムが働くようになればと思う。今回、この場に持つてくるまでたくさんの議論があつたと思うが、そのプロセスが非常に大切。そういう過程の中でいろいろ検討して強くなっていくということが非常に大事だと考えます。これから輪を広げていくということだが、ぜひ、場を広げていってほしい。主催・共催者も皆さんを応援していきたい。以上、総務省のメッセージです。

(生徒) ありがとうございます。

文部科学省 意見交換

(文部科学省 以下文科省) ネットトラブルの事例から報告会が始まっているが、たくさんの人が集まって話をした中で、高校生が実際に遭っているネットトラブルはどれくらい共有できたのか。どんなことが起きていることを知ったのか、もう少し具体的に教えてほしい

(生徒) 具体例を挙げる前に、自分の体験談よりはこういう話を聞いたことがある、こういうトラブルがある、という知識の上での事例を挙げていくことが多かった。ワンクリック詐欺のページが表示されたことがある、Twitter アカウントを乗っ取られたなど。個人情報流出も色々種類があって、肖像権の話が多かった。写真をネットに上げられてしまったということは結構あった。知っているから事例として上げる、ということが多かった。

(生徒) 実例を挙げた参加者の話では、彼女の写真を LINE でアップされてとても不快だったという話があった。自分の意に沿わない写真を上げられたという例を挙げた人もいて、気軽に投稿できる SNS は危ないと思った。

(文科省) いじめ保険というのは、ネットトラブルの事例としてネットストーカーなど具体的なものが皆さん高校生という立場から大きな課題ということで提言をしたのか。またいじめ保険について具体的に教えてほしい。

(生徒) いじめ保険については一年生から説明する。サムスンが出している、子どもに対して被害を受けたとき保障するものと、ヒュンダイが出している暴力や死亡による身体被害の保障などがある。フランスの例を挙げると、書き込みを消すための費用を出すという保険がある。何故今回保険をあげたかという、ネットとリアルの世界は密接に関わっていて、現実のいじめがネットに直接加わると思うから。ネットのいじめは現実にくるという事例もあるが、それは他人同士で、離れた人がネットで悪口を言われて頭に来て犯行に及んだという例。高校生は現実の世界で起こったいじめがネットに発展する。だからネットだけでなく現実の世界も適応する保険を提言した。

(引率教員) 今の話の補足で、部の後輩の一年生が調べたことを付け加える。

(参観生徒) 韓国やフランス、イギリスなど外国の例もあるが、日本でも 2016 年 12 月 1 日より、炎上を予防して対応する包括的サービス「ネット炎上対策パッケージ」が取り扱われている。エステルという会社の調べでは、炎上件数は 2015 年に 1,000 件を突破して、約 10 倍に増えた。損害保険ジャパン日本興和という会社が取り扱っており、大変注目されている保険ということである。

(文科省) 大人に相談するのはハードルが高いのだろうか。恥ずかしいことを言いたくない、という意識は分からないでもないが、両親、先生、スクールカウンセラーがいる。人によるのかもしれないが、言いにくいと思っている人が多いのか。

(生徒) トラブルの内容によって異なると思うが、ワンクリック詐欺の場合、親に打ち明けると怒られそうだという意識が働く。また大人の方がネットの知識が無く、自分たちの方が(ネットの知識を)持っていると思うと、一から説明しなければならず、一回で伝わるかどうかわからないので、同級生に相

談するということが多いと思う。相談しにくいというより、スクールカウンセラーはネット問題ではあまり頼らないのではないかと。いじめや心の悩みで頼るのが主だと思っている人が多いと思う。スクールカウンセラーにネットの悩みを相談していいのか、ちゃんとした答えが返ってくるのか、というところもあると思う。

(生徒) いじめをどう定義するかはとても難しく、相手に悪口を言ったとしてもふざけているのかいじめなのか、背景や友達関係がわからないと大人は全く分からないと思う。警察が出てくるような大事にならないかぎり説明しづらい。現実には、大事ではなく非常に小さなことで悩んでいる。グレーというか、相手はふざけ感覚で悪口を言ったとしても、自分は非常に嫌だからどうしよう、これを解決したいけど大人に言って話を大きくしたら嫌われて友達が少なくなってしまう場合もあり、そのままずるずると引き摺って卒業を迎え、解決になってしまう。それが一番問題だと思う。

(文科省) 大人に言っても通じないのではないかと、ほんの些細なことを相談したいのであって、大事になるような相談になるのは気が引けるというのはよくわかった。もし皆さんが中学生に授業する時、何を一番伝えたいか。逆に、大学生・専門学校生に聞きたいことは何か。

(生徒) ネットトラブルのワンクリック詐欺で、タスクマネージャの使い方を教えていただければすごく有難い。ボタンを押せばすぐ消える簡単なものから、全く消えずにアラームが鳴り続けてすごく戸惑うものもある。落ち着いてタスクマネージャを開いて、タスクを消す、とすればいいだけ。またクーリングオフ制度などについて、中・高校生になってわかるものも小学生はわからないので、かいつまんで教えてあげると分かりやすいのではないかと。大学生たちに教わりたいこととしては、自分は被害にあったことがないので具体的にはわからない。LINEに頼らない生活、電話でどんな風に話せばいいのかなど教えてもらえるといい。

(文科省) ネットの世界とリアルの世界をもっと近づけるような生活の経験を聞きたいということか。

(生徒) ネットの情報モラルなどそういうことでもいい。使う上で最低限知っておかないといけないことがあるはず。何も知らない人がネットを使って掲示板に悪口を書き込む、そんなことばかりしていたら、炎上するケースは増えていくだろう。ネットは匿名が多いが書き込んだら(誰なのか)ばれる。でも捕まらない、というのが現実。実際に捕まるのはよっぽどのことをした人で、これくらいでは捕まらないし、罰もない。だから良いとなるのが現状だと思う。しかし、リアルで言えないことをネットで言っているわけではない。その分別をきちんとつけさせるべきだと思う。今からもっと便利になっていく時代なのだから、ネットはもっと状況が悪化すると思う。マナー、著作権、肖像権についてはきちんと勉強したかったと強く思っている。

(文科省) それは学校で教えることになっているが、十分に行われているかどうか。

(生徒) 学校では、十分に行われていないと思う。同級生が著作権や肖像権、情報モラルについてきちんと知らないというのは、義務教育の過程でしっかり学ぶことができていないからだと言いつける。そこに力を入れるためにも、ただビデオを見せたり専門家の話を聞かせるだけではなく、寝ない授業。ビデオを見て感想書を書くというのは、寝ていてもある程度出来る。中学生のときに高校生に憧れがあっ

たので、高校生が授業に来てくれたら興味を持って聞く。3歳くらいしか変わらないのに何をしゃべるのだろう？一時間の授業を先生の代わりに出来るのか？と興味が湧く。そこからきっちり伝えることができるのではないか。きちんと勉強する場が欲しかったと思っているから、こういう提案をした。

(生徒) 荒っぽい言い方だが、恐怖心が必要だと思う。被害に遭ったことが無いから(授業で)寝てしまえと思う。自分が必要なものは寝ない。だから恐怖心を持つことは大切。被害に遭った人のビデオを見せて、自分もこんな目に遭うのは嫌だなと思うと学ぶ。言っていることは正しくても、聞き手が耳を貸さないと伝わらないことが問題だと思う。

(文科省) 不安を必要以上に煽ることにならずに上手に使い、利便性を受けながらきちんと対応できることが大切だ。高校生のニーズにどこまで迫ることができるか考えないといけない。ありがとうございました。

(生徒) 高校生を中心にするより、いまは中学生もスマホを40%くらい持っている。年々増えているので、そちらをターゲットにしたほうが素直だと思う。

(文科省) 二人から見て、先生方の情報活用能力やリテラシーは高いと思うか。

(生徒) 情報科の先生は尊敬するレベル。先生によっては電子黒板やプロジェクタが活用できておらず、もったいないと思うこともある。だからといって授業の体制を崩してしまうと分かりにくくなることもあるから、全員必要ということではない。先生にもテンポがあるから強要する必要はないと思う。

(文科省) 中学生のときはどうだったか。

(生徒) 中学の時は、メディアや映像を使うことは無く、ビデオを見るときにテレビを持ってきて繋ぐくらいだった。

(生徒) 高校では、スマホを持っておらずネットに通じてない先生、スマホを持ち Twitter に通じている先生、ガラケーでニュースしか見ない先生などがおり、ネットリテラシーが必要ない人も中にはいる。小学6年生のときは、ネットリテラシーという言葉が普及しておらず、未発達だった。とても無法地帯だったと思う。

(文科省) だからこそ、近い世代が教えたほうが良いということか。

(生徒二人) はい。

(文科省) ネットリテラシーという言葉が出たが、二人はどうやってここまでリテラシーを身に着けたか。自覚をもって周りを見て考えるようにすると、先ほどの被害の状況や、ネットを使う時にどういうことが大事なのが身に付いている。そういうことで言うと、出前授業や相談できる体制というのも大事だが、自分が使うときにどうあるべきか、自分自身で真剣に考えることができればいい。人から教わろうと思うと材料はたくさんある。待つのではなく、自分自身が責任を持って何かをするときに、自分

も被害を受けず、他人にもひどいことをしないようにするというのは、ネットに限らずどんな時でもとても大事なことだと思う。一般論的になってしまうが、きっと二人は自分の力でここまで知識を得たのだと思うので、ネットリテラシーに限らず自分で自分の行動をどう律するかということを、もっと子どもたちが意識してもらえたらいい。大人も子供たちが意識してくれるような形での働きかけ、大人自身の行動も気をつけたいといけない。

(生徒) あまりお勧めしないのだが、リテラシーを身に着けるためには、方法がある。白に近いグレーを体験すること。友人とネットを使って喧嘩をしたが、落ち着いたのは電話のやりとりだった。電話だとトーンがわかり、本気か本気じゃないかの区別が付く。だから LINE を使うときは具体的に自分の意図を込めて言うようにしないといけないという練習をしたり、様々なサイトを調べてワンクリック詐欺に引っかかってみたりする。

(文科省) 活動を一生懸命行って、そこでひとつ大きな「体験が大切」というヒントを得たということですね。

主担当

敬称略

大阪私学情報教育化研究会 (高校生 ICT Conference 実行委員長)	米田 謙三	概要説明
安心ネットづくり促進協議会	白戸、高橋、 源、藤井	事務局、庶務
一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構	清水、野沢	撮影、記録
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡、工藤	記録

18. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

高校生 ICT Conference 終了後、開催報告書、熟議録、生徒のグループ発表資料、画像と併せて高校生 ICT Conference 2016 のサイトにアップデートします。

<http://www.good-net.jp/ict-conference/2016>

